

## 第4回要介護認定調査検討会

### － 議 事 次 第 －

日時：平成20年5月2日（金）15：00～17：00

場所：厚生労働省17階 専用第18・19・20会議室

#### 議題

1. 要介護認定適正化事業の報告について
2. 要介護認定モデル（一次）の報告について
3. 認定ロジックの作成方針について
4. その他

## 第4回 要介護認定調査検討会

### 資料一覧

- 資料1 平成19年度要介護認定適正化事業
- 資料2-1 要介護認定モデル事業(第一次)
- 資料2-2 調査項目の選定について(1)
- 資料2-3 モデル一次データ(32,713件)項目別回答構成比
- 資料2-4 調査項目の選定について(2)
- 資料2-5 樹形図の使用項目数を変更した場合の決定係数の比較
- 資料3-1 樹形図の作成方針について
- 資料3-2 要介護1相当の振り分け方針について
- 資料3-3 運動機能の低下していない認知症高齢者の指標の改定案  
について
- 資料3-4 特別な医療にかかる時間の修正
- 資料4 要介護認定一次判定ロジック(樹形図)変更の流れ
- 別添1-1 項目選定条件について①
- 別添1-2 項目選定条件について②
- 別添1-3 項目選定条件について③
- 参考 「高齢者の老化プロセスにおける分析に関する研究」委員会 WG  
からの報告(抜粋)

# 平成19年度 要介護認定適正化事業

平成20年5月2日

## 認定適正化専門員 岩名礼介

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社副主任  
研究員

# 要介護認定適正化事業の背景

- 要介護認定は全国どこで申請しても統一された基準に基づいて審査されることが基本原則。
- 実態として、地域間格差が認められる。
- どのようなメカニズムで地域間格差が生じているかは明らかではなかった。
  - 介護認定審査に関するバラツキの原因を把握
  - 介護認定審査会内でのバラツキを解消するための技術的な助言を行う

# 要介護認定適正化事業

目的：適正な審査判定を徹底し、要介護認定の適正化を推進

- 各都道府県・市町村等からの要請に基づき、認定適正化専門員を派遣
- 対象市町村の現状を確認した後、認定適正化専門員による介護認定審査会の運営現場における技術的助言
- 認定適正化専門員は1グループ3-4名程度
- 19年度は78の審査会を訪問



# 事業の実施概要

## ■ 実施概要

- 訪問期間：平成19年7/30～平成20年2/28
- 訪問都道府県数：43都道府県
- 訪問箇所数：78審査会
- 傍聴合議体数：112合議体
- 傍聴審査件数：3,158事例

# 事業実施審査会リスト

7月30日	彦根市
7月31日	豊明市
8月2日	宿毛市
8月7日	防府市
8月9日	鳥取県東部行政管理組合
8月15日	もとす広域連合
8月16日	阿久比町
8月17日	岡崎市
8月20日	川崎市（川崎区）
8月21日	筑後市
8月23日	加賀市
8月27日	茨木市
8月28日	諫早市
9月3日	大牟田市
9月4日	四国中央市
9月6日	上三川町
9月7日	渋川市
9月10日	川崎市（中原区）
9月11日	平戸市
9月14日	北アルプス広域連合
9月18日	南那須広域行政事務組合
9月19日	新居町

9月20日	川崎市（幸区）
9月25日	松浦市
9月27日	彦根市（2回目）
10月3日	豊岐市
10月5日	八幡市
10月9日	荒川区（1回目）
10月11日	多治見市
10月15日	守谷市
10月16日	呉市
10月17日	金沢市
10月19日	日向市
10月23日	田村市
10月25日	鹿角市
10月26日	尼崎市
10月30日	伊予市
11月1日	広島市
11月1日	荒川区（2回目）
11月5日	宇治市
11月6日	盛岡市
11月7日	仙台市（1回目）
11月8日	二本松市
11月9日	相模原市

11月12日	荒川区（3回目）
11月13日	高島町
11月14日	足立区
11月15日	七尾市
11月20日	仙台市（2回目）
11月21日	山口市
11月22日	那覇市
11月26日	気仙沼市
11月27日	下妻市
11月28日	沖縄県介護保険広域連合
11月30日	生駒市
12月4日	徳島中央広域連合
12月6日	江東区
12月10日	泉南市
12月12日	市川市
12月13日	世田谷区
12月14日	大里広域市町村圏組合
12月17日	秩父広域市町村圏組合
12月18日	笛吹市
1月8日	岡山市
1月9日	柏原市
1月10日	苫小牧市

1月16日	美馬地区介護認定審査会
1月17日	雲南広域連合
1月21日	石川町
1月22日	美里町
1月24日	鹿児島市
1月30日	船橋市
2月1日	志木市
2月4日	練馬区
2月5日	臼津広域連合
2月7日	名古屋市（熱田区）
2月7日	高岡市
2月13日	和歌山市
2月14日	福岡県介護保険広域連合
2月14日	名古屋市（南区）
2月18日	小豆地区広域行政事務組合
2月19日	新宮市
2月20日	名張市
2月26日	佐賀中部広域連合
2月27日	倉敷市

# 事業実施内容

- 市町村等の要請に応じて、厚生労働省及び要介護認定適正化事業事務局の認定適正化専門員が訪問
- 訪問に際し、各自治体ごとのデータをまとめたレポートを送付



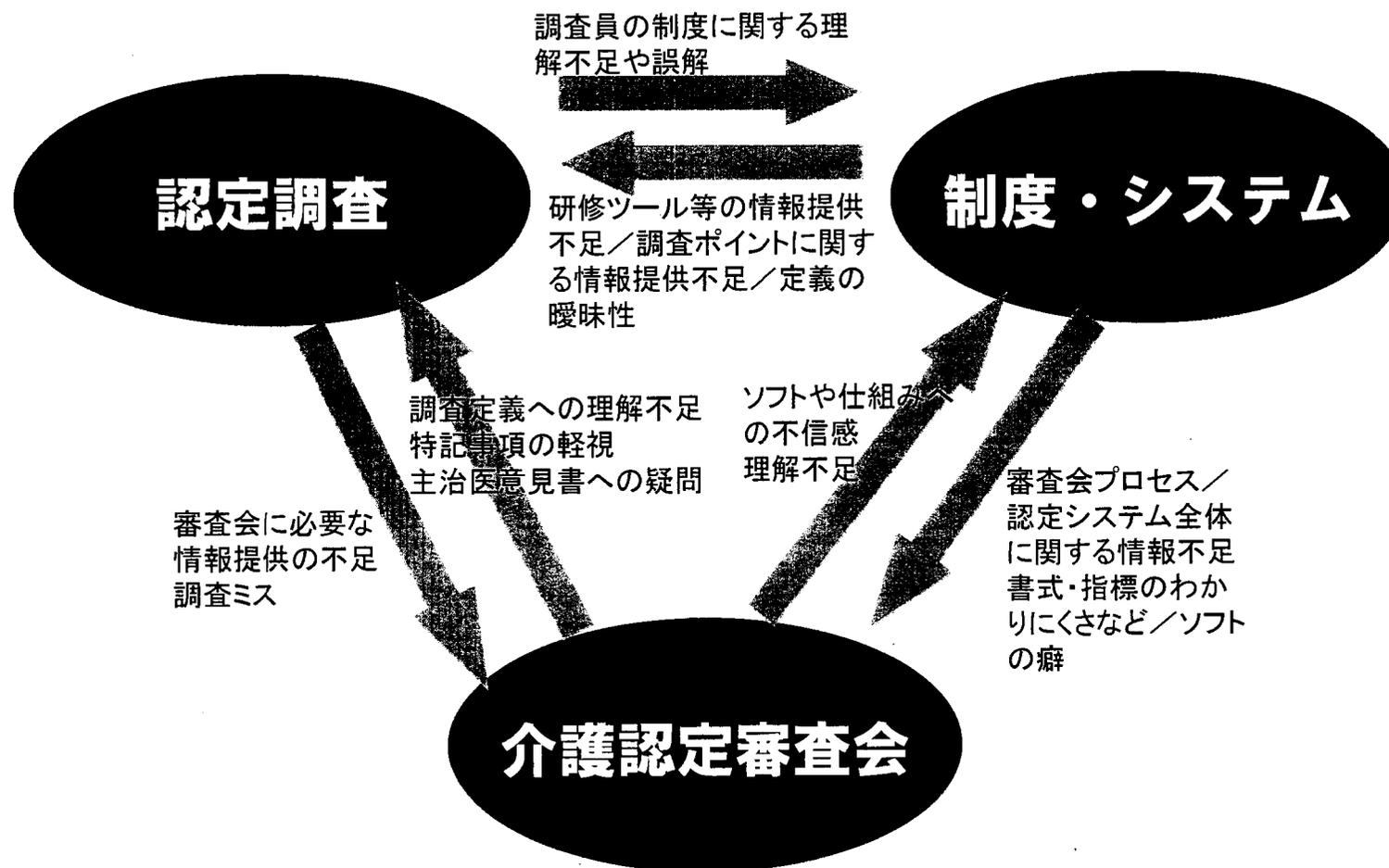
- 事務局への事前ヒアリング
  - 審査会の傍聴
  - 審査会委員との意見交換
- 審査会の抱える問題点の把握



- 事務局との協議
- 問題点とその改善方法の提示、適切な審査会運営のための助言・情報提供
- プロセスの適正化を通じて合議体間のバラツキを修正

# 適正化における3つの改善領域

- 適正化推進のためには3つの領域における同時並行の改善が必須。



# 個別の調査項目について

## ■ 皮膚疾患(第4群1-イ)

- 現行のルールでは水虫などの軽微な皮膚疾患などでのチェックも認められている。
- チェックをすることで基準時間に大きな影響を与える場合があるが、介護の手間が明らかでないケースも少なくない。たとえば魚の目や乾燥肌など、対応が軽微と思われるもの。
- 重度の火傷や、開放創など、一定の処置や介護の手間や特別の配慮を必要とするものは例外的なものであり、特記事項で対応可能ではないか。

## ■ つめ切り(第5群1-エ)

- 定義上は「日頃からその行為を自分で行っているかどうか」で判断する項目。
- 本人に能力があるものの、デイサービス等でケアの一環として「全介助」されている場合がある。能力勘案は認められているが、現場では能力ありでも全介助とするケースが多々見られる。

# 個別の調査項目について

## ■ 飲水(第4群4)

- 定義上の取扱について現場で混乱が見られる。
- 水筒／ペットボトルor コップ／湯飲みという用いられるモノに基づく客観的な判断と、適切量の適正な判断や口渇感の訴えなど判断が分かれやすい基準が混在。
- 複数の基準が組み合わさっているため、すべての介助区分で重複感があり、わかりにくいとの指摘が多い。

## ■ 火の不始末(第7群-ソ)

- 火の不始末を未然に防ぐことを目的とした「見守り」の必要性を二次判定で大きく加味する場合が見られる。
- 一般に認定調査における「見守り」は、ある特定の行為(例えば着脱等)を行っている際の見守りであり、火の不始末が起こらないかどうかを予防的に「見守っている時間」とは区別されるべきではないか。
- 同様の問題は「徘徊」などにも見られる。

# 要介護1相当の振り分けについて

- 訪問したほぼ全ての審査会から改善要望が出された。
- プロセスでは「廃用の程度」が「比較的軽度」であるか、「それ以外」であるかを吟味することとされているが、実質的には「状態の安定性」のみで振り分けが行われる。
- したがって「廃用の程度」の吟味には意味がない、あるいは混乱要因であるとの指摘がなされている。
- あわせて、「介護給付相当」「予防給付相当」の表示も議論を混乱させる一因との指摘がある。

# 要介護1相当の振り分けについて

- 「状態不安定」は、未来の予測を行うもので、審査委員によって判断が分かれやすい。
- 6ヶ月以内に誰もが悪化する可能性があるといえる一方、「6ヶ月後に悪化すると予測する根拠」を明示することは困難。
- 振り分けの判定にかかる審査時間が必要となることから、全体の審査の長時間化が進んでいる。審査会のキャパシティーからみてもプロセスの簡略化または明確化が必要ではないか。

## 運動機能の低下していない認知症 高齢者(いわゆるレ点)の取扱

- 一次判定は基準時間を尺度として表示しているにも関わらず、レ点の取扱は「段階」を基準としており、両者が整合していない。
- 基準時間を原則とした制度として運営するのであれば、「段階」ではなく、「時間」での加算で評価を行うべきではないか。

# 特別な医療

- 基準時間が加算方式にて評価されるため、1項目のチェックでも一次判定結果が変更されることがある。
- 特に、「透析」は要介護1相当でも出現するが、居宅の場合は、医療機関への通院で（医療保険の適用に基づき）行われており、介護の手間と直接関連していない場合が見られる。

特別な医療における基準時間の加算分数

項目名	時間(単位:分)	項目名	時間(単位:分)
点滴	8.5	気管切開の処置	5.6
中心静脈栄養	8.5	疼痛の看護	2.1
透析	8.5	経管栄養	9.1
ストーマの処置	3.8	モニター測定	3.6
酸素療法	0.8	じょくそうの処置	4.0
レスピレーター	4.5	カテーテル	8.2

# 審査会負担の軽減の必要性

- 審査委員／認定調査員の確保は各地で困難を極めている。
- 財政削減により審査会事務局職員の増員は期待薄である。
- 審査件数は増加傾向にあり、審査会のキャパシティーは限界に近づきつつある。また、過剰負荷が事務局のチェック体制に悪影響を及ぼしているとの指摘もある。
- 調査項目数も含め、全体の負担軽減が必要ではないか。

市町村ごと報告件数(確定版)

Table with 4 columns: 項, 保険者番号, 保険者名, 報告件数. Rows 1-51 listing municipalities and their respective report counts.

8,583

Table with 4 columns: 項, 保険者番号, 保険者名, 報告件数. Rows 52-106 listing municipalities and their respective report counts.

4,558

Table with 4 columns: 項, 保険者番号, 保険者名, 報告件数. Rows 107-158 listing municipalities and their respective report counts.

5,532

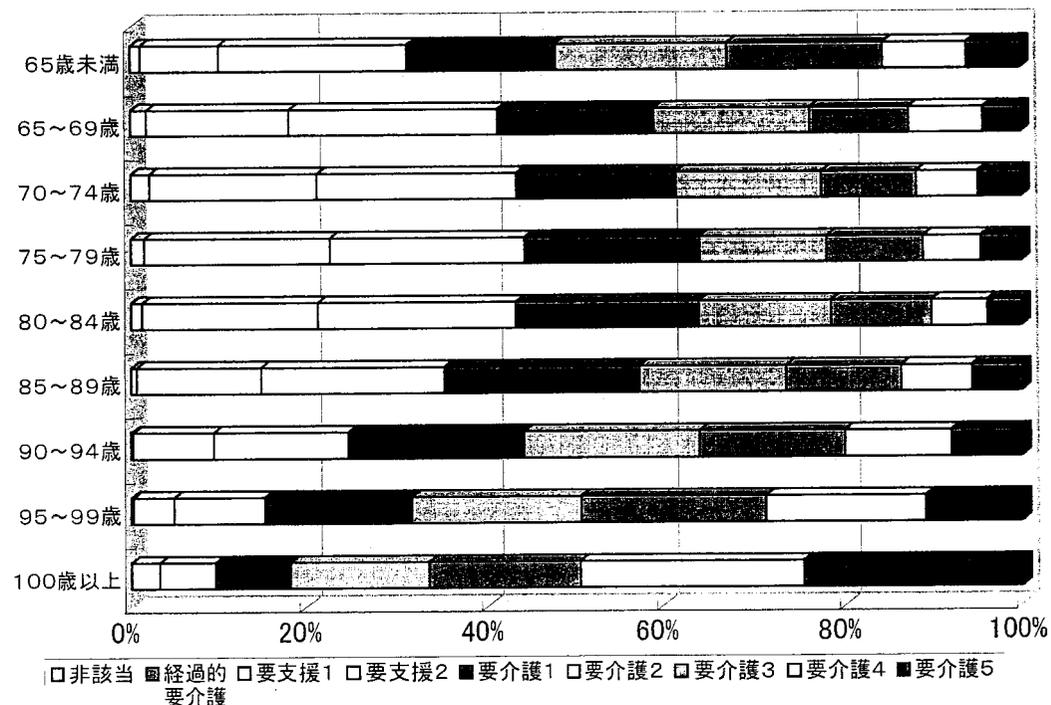
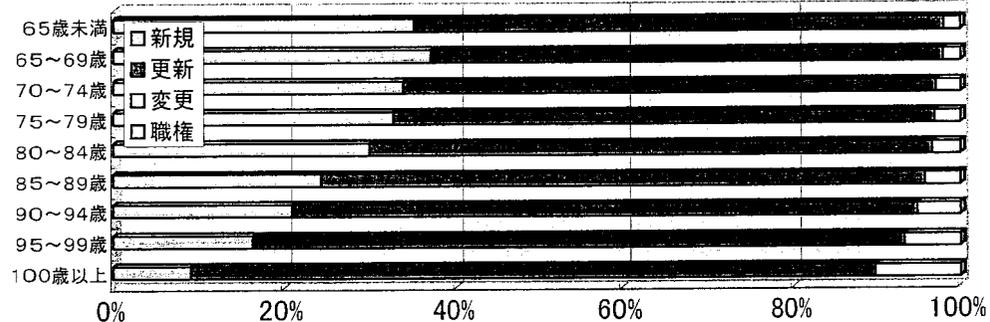
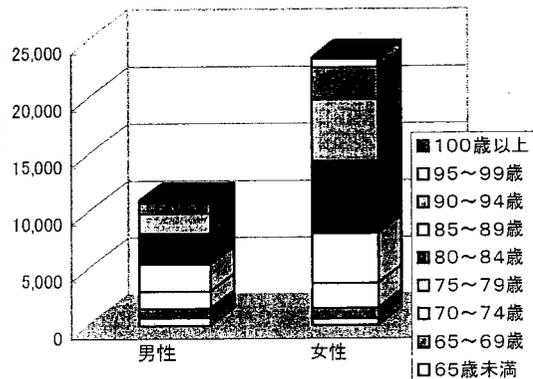
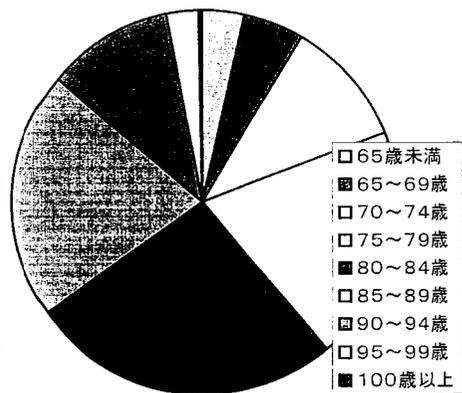
Table with 4 columns: 項, 保険者番号, 保険者名, 報告件数. Rows 159-211 listing municipalities and their respective report counts.

6,030

Table with 4 columns: 項, 保険者番号, 保険者名, 報告件数. Rows 212-262 listing municipalities and their respective report counts.

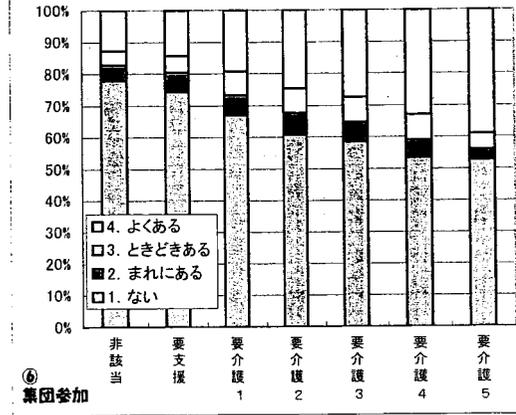
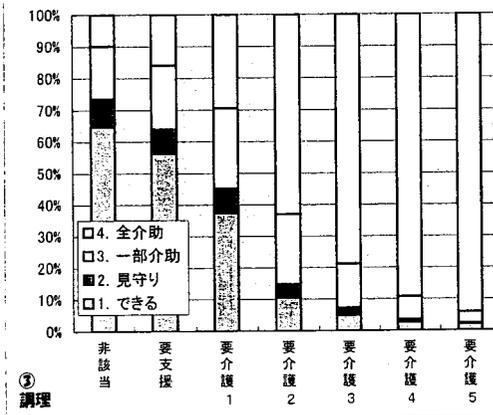
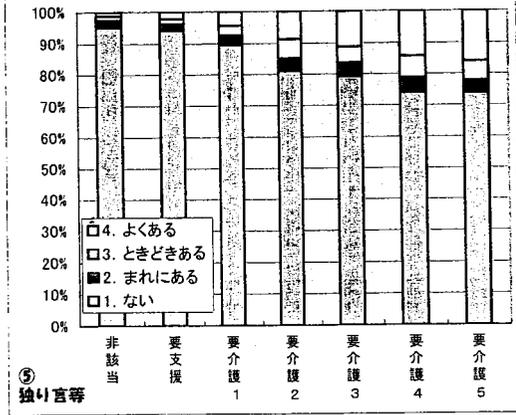
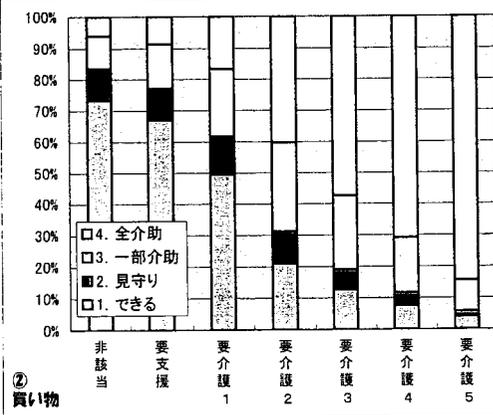
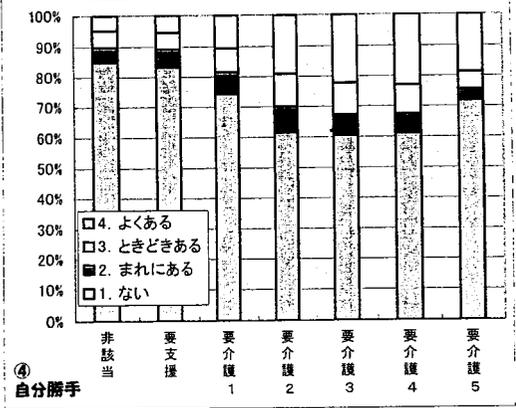
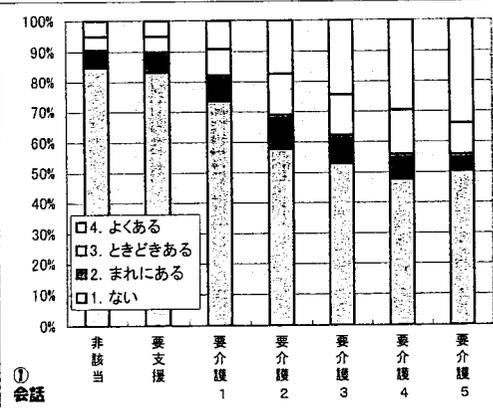
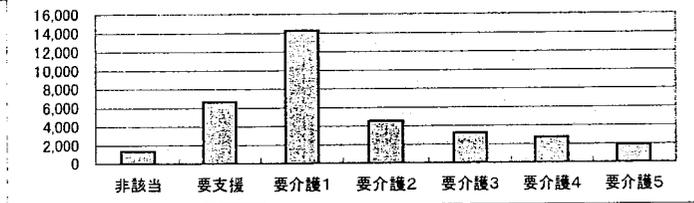
9,698

項	年齢階級	報告件数	構成比率	申請区分				性別		二次判定結果											
				新規	更新	変更	職権	男性	女性	非該当	経過的要介護	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	再調査	取消	未判定
1	65歳未満	1,228	3.57%	428	776	24	0	660	568	13	0	106	244	194	225	201	111	70	0	0	0
2	65~69歳	1,743	5.07%	643	1,065	35	0	814	929	30	0	273	382	297	283	186	140	70	0	0	0
3	70~74歳	3,650	10.61%	1,226	2,320	104	0	1,506	2,144	74	0	662	760	631	549	372	241	166	0	0	0
4	75~79歳	6,783	19.72%	2,201	4,378	204	0	2,384	4,399	96	0	1,361	1,380	1,277	892	704	418	291	0	0	0
5	80~84歳	9,051	26.31%	2,688	6,066	297	0	2,696	6,355	109	0	1,733	1,880	1,793	1,244	984	539	335	0	0	0
6	85~89歳	7,193	20.91%	1,744	5,151	298	0	1,767	5,426	42	0	983	1,381	1,532	1,101	885	555	383	0	0	0
7	90~94歳	3,696	10.74%	773	2,734	189	0	904	2,792	7	0	327	536	682	702	561	426	281	0	0	0
8	95~99歳	959	2.79%	158	737	64	0	215	744	2	0	43	96	149	176	189	165	100	0	0	0
9	100歳以上	98	0.28%	9	79	10	0	17	81	0	0	3	6	8	14	16	23	23	0	0	0
合計 (構成比率)				9,870	23,306	1,225	0	10,963	23,438	373	0	5,491	6,665	6,563	5,186	4,098	2,618	1,719	0	9	1,679
				28.69%	67.75%	3.56%	0.00%	31.87%	68.13%	1.14%	0.00%	16.79%	20.37%	20.06%	15.85%	12.53%	8.00%	5.25%	0.03%	0.03%	4.88%
				34,401				34,401		34,401											

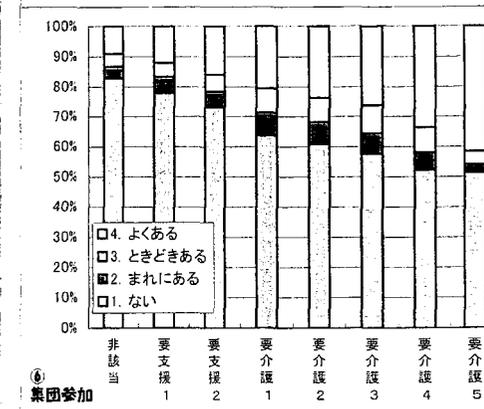
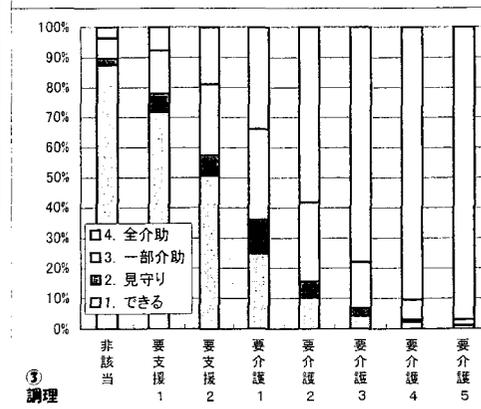
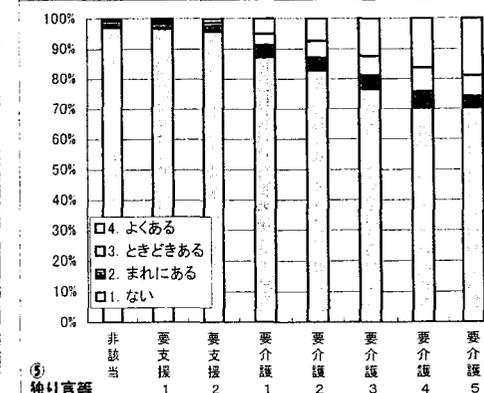
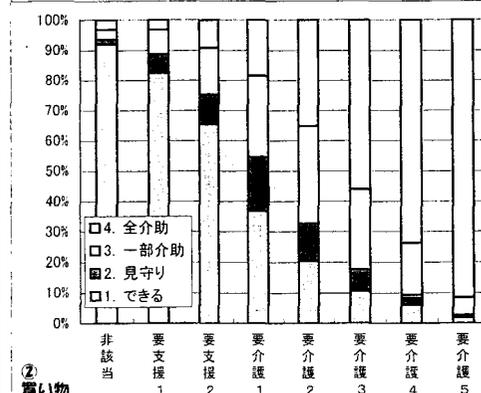
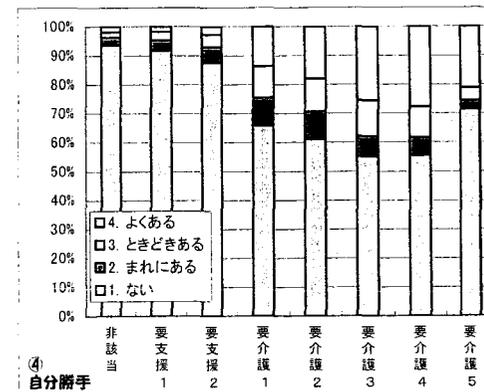
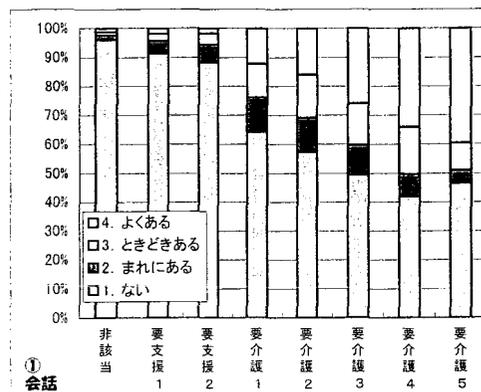
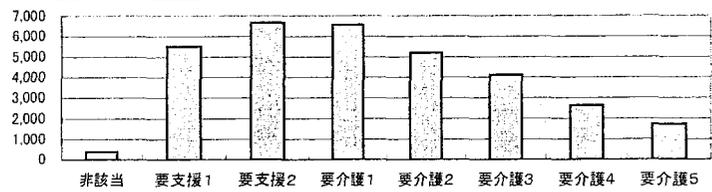


一次判定結果

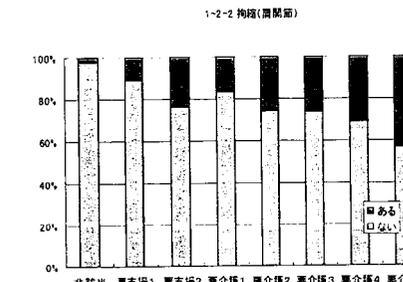
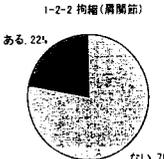
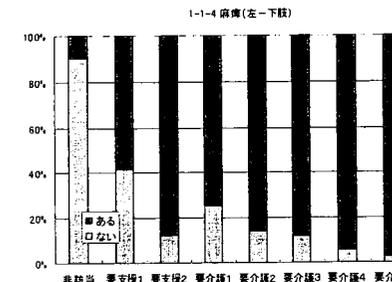
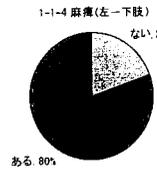
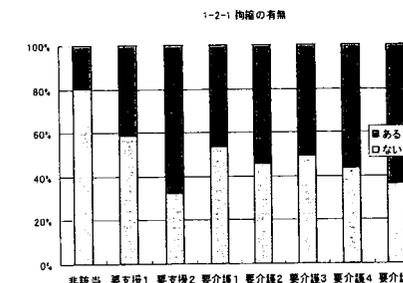
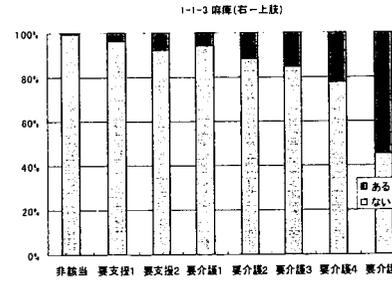
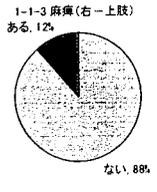
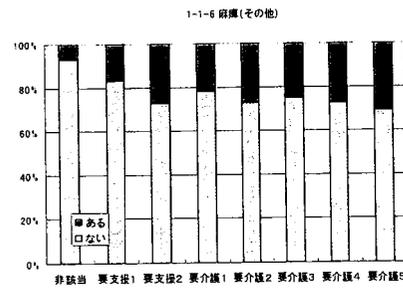
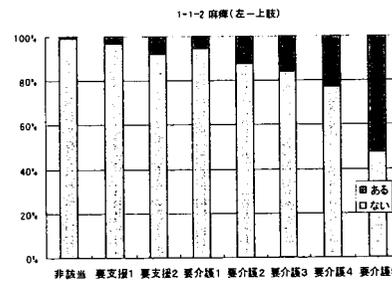
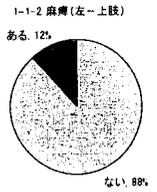
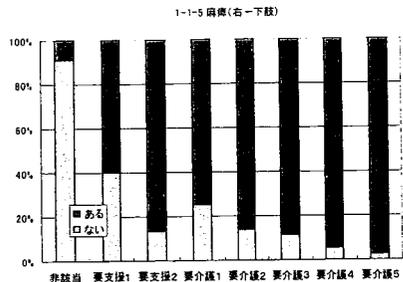
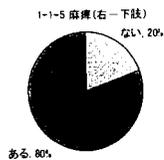
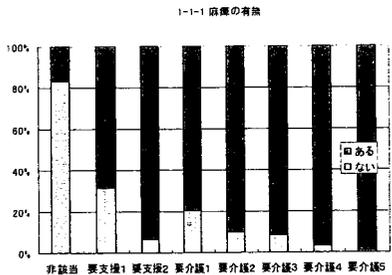
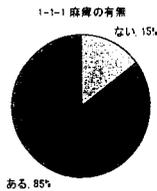
調査項目	選択肢	一次判定結果							合計	構成比
		非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5		
① 会話 (11-3-16)	1. ない	1,128	5,488	10,442	2,609	1,685	1,267	942	23,561	68.49%
	2. まれにある	76	444	1,215	508	298	219	102	2,862	8.32%
	3. ときどきある	61	339	1,235	614	429	390	192	3,260	9.48%
	4. よくある	67	336	1,319	791	778	790	637	4,718	13.71%
② 買い物 (12-6)	1. できる	976	4,424	7,004	942	401	199	74	14,020	40.75%
	2. 見守り	135	661	1,750	463	202	109	31	3,351	9.74%
	3. 一部介助	141	949	3,083	1,293	753	468	186	6,873	19.98%
	4. 全介助	80	573	2,374	1,824	1,834	1,890	1,582	10,157	29.53%
③ 調理 (13-1)	1. できる	860	3,703	5,316	467	152	67	35	10,600	30.81%
	2. 見守り	119	512	1,081	195	76	23	6	2,012	5.85%
	3. 一部介助	221	1,330	3,619	1,011	443	194	66	6,884	20.01%
	4. 全介助	132	1,062	4,195	2,849	2,519	2,382	1,766	14,905	43.33%
④ 自分勝手 (14-9)	1. ない	1,129	5,498	10,542	2,772	1,927	1,623	1,344	24,835	72.19%
	2. まれにある	65	385	1,024	387	215	170	70	2,316	6.73%
	3. ときどきある	74	363	1,124	493	336	260	106	2,756	8.01%
	4. よくある	64	361	1,521	870	712	613	353	4,494	13.06%
⑤ 独り言等 (14-25)	1. ない	1,266	6,215	12,713	3,659	2,523	1,970	1,383	29,729	86.42%
	2. まれにある	32	137	438	189	144	128	74	1,142	3.32%
	3. ときどきある	17	105	428	275	164	186	117	1,292	3.76%
	4. よくある	17	150	632	399	359	382	299	2,238	6.51%
⑥ 集団参加 (14-26)	1. ない	1,036	4,911	9,503	2,742	1,860	1,422	985	22,459	65.29%
	2. まれにある	66	399	904	311	199	146	62	2,087	6.07%
	3. ときどきある	60	343	1,052	352	257	217	92	2,373	6.90%
	4. よくある	170	954	2,752	1,117	874	881	734	7,482	21.75%
計		1,332	6,607	14,211	4,522	3,190	2,666	1,873	29,401	
構成比		3.87%	19.21%	41.31%	13.14%	9.27%	7.75%	5.44%		100.00%

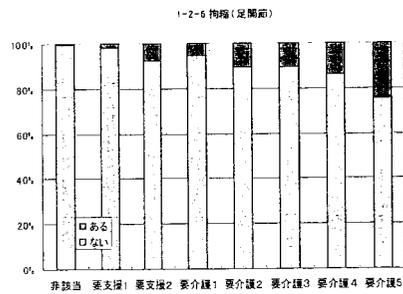
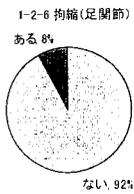
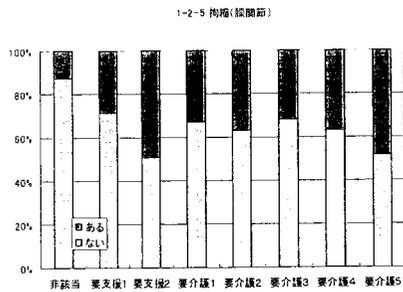
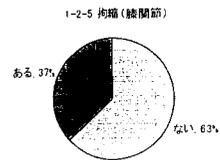
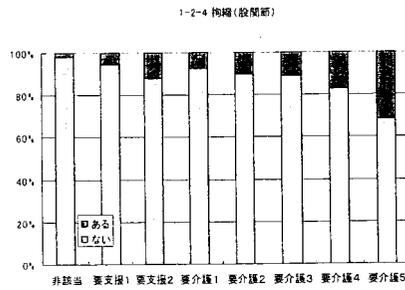
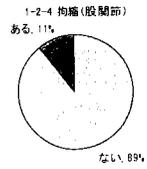
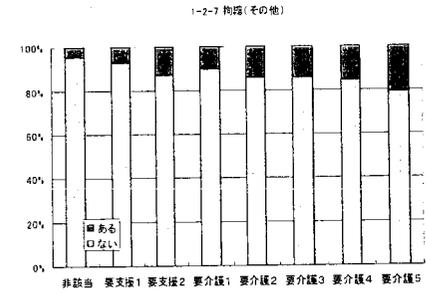
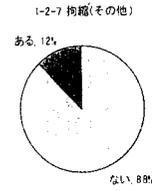
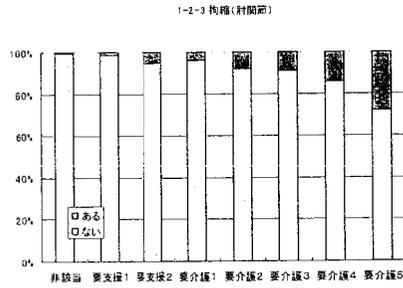
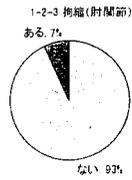


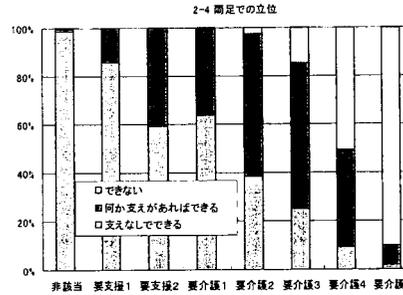
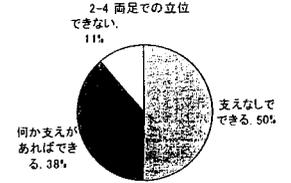
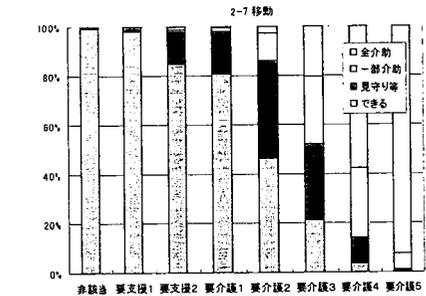
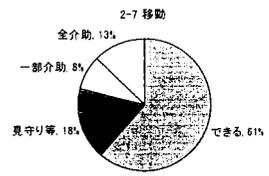
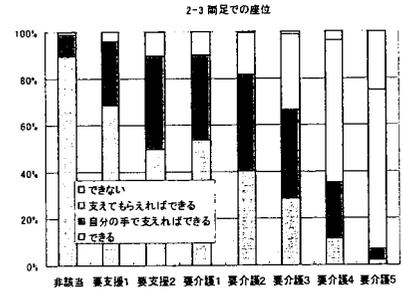
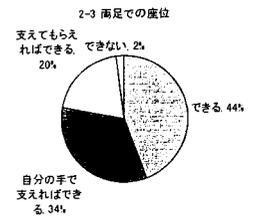
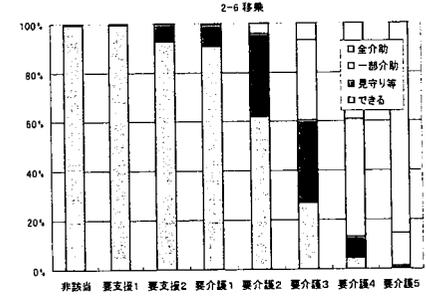
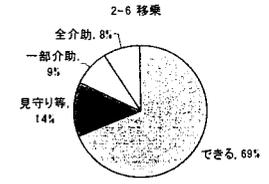
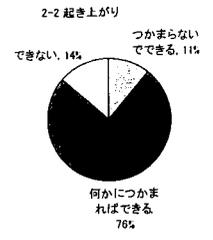
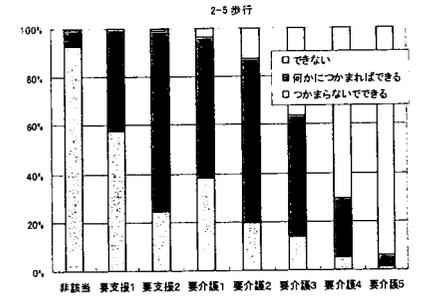
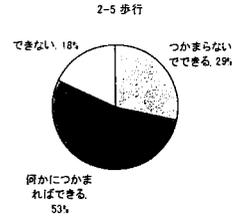
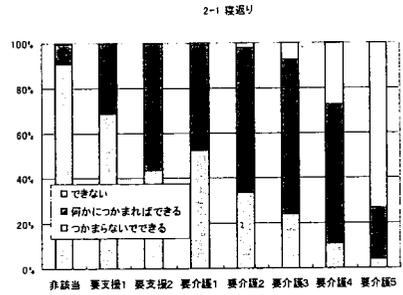
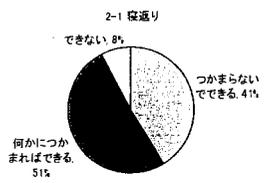
調査項目	選択肢	二次判定結果								合計	構成比
		非該当	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5		
① 会話 (11-3-16)	1. ない	358	5,005	5,880	4,207	2,965	2,018	1,098	799	22,330	68.26%
	2. まれにある	6	244	408	785	614	420	202	74	2,753	8.42%
	3. ときどきある	4	139	257	766	773	590	423	161	3,113	9.52%
	4. よくある	5	103	120	805	834	1,070	895	685	4,517	13.81%
② 買い物 (12-6)	1. できる	343	4,528	4,358	2,408	1,050	438	158	30	13,313	40.70%
	2. 見守り	6	340	661	1,170	638	283	87	15	3,200	9.78%
	3. 一部介助	12	447	1,034	1,769	1,670	1,081	441	100	6,554	20.03%
	4. 全介助	12	176	612	1,216	1,828	2,296	1,932	1,574	9,646	29.49%
③ 調理 (13-1)	1. できる	326	3,938	3,377	1,627	527	170	58	19	10,042	30.70%
	2. 見守り	8	333	445	730	280	107	21	2	1,926	5.89%
	3. 一部介助	25	794	1,579	1,983	1,357	621	169	30	6,558	20.05%
	4. 全介助	14	426	1,264	2,223	3,022	3,200	2,370	1,668	14,187	43.37%
④ 自分勝手 (14-9)	1. ない	349	5,029	5,830	4,306	3,157	2,250	1,449	1,224	23,594	72.12%
	2. まれにある	10	204	363	639	496	287	159	55	2,213	6.76%
	3. ときどきある	7	161	283	719	595	510	279	76	2,630	8.04%
	4. よくある	7	97	189	899	938	1,051	731	364	4,276	13.07%
⑤ 独り言等 (14-25)	1. ない	362	5,308	6,373	5,720	4,285	3,136	1,838	1,206	28,228	86.29%
	2. まれにある	8	82	129	262	229	185	143	66	1,104	3.37%
	3. ときどきある	2	52	74	248	282	265	209	120	1,252	3.83%
	4. よくある	1	49	89	333	390	512	428	327	2,129	6.51%
⑥ 集団参加 (14-26)	1. ない	308	4,265	4,871	4,177	3,151	2,361	1,364	881	21,378	65.35%
	2. まれにある	15	304	348	496	376	279	153	47	2,018	6.17%
	3. ときどきある	16	256	372	535	421	383	219	74	2,276	6.96%
	4. よくある	34	666	1,074	1,355	1,238	1,075	882	717	7,041	21.52%
計		373	5,491	6,665	6,563	5,186	4,098	2,618	1,719	32,713	
構成比		1.14%	16.79%	20.37%	20.06%	15.85%	12.53%	8.00%	5.25%		100.00%

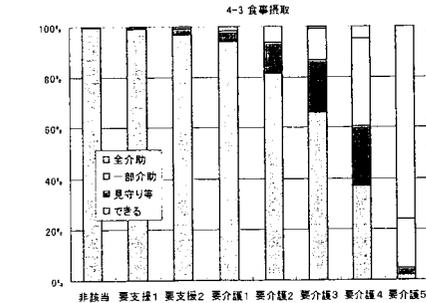
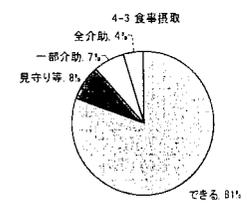
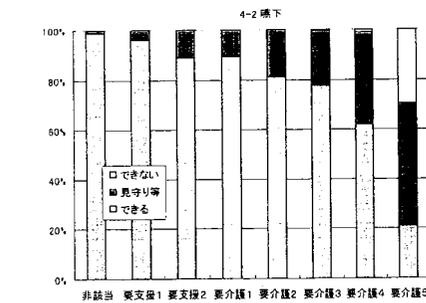
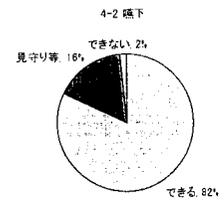
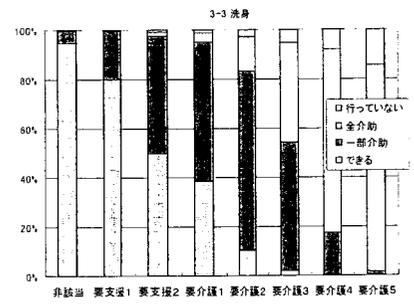
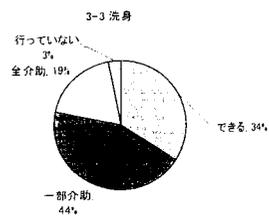
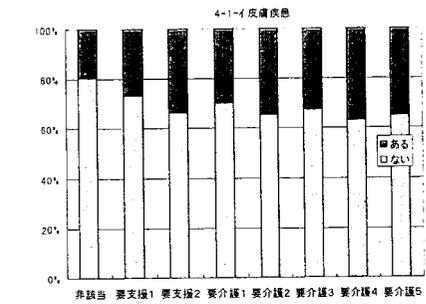
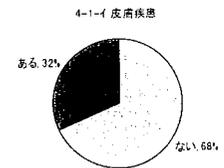
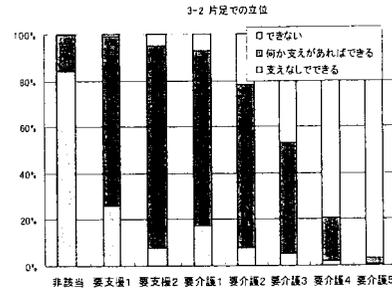
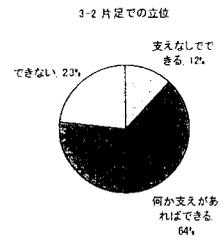
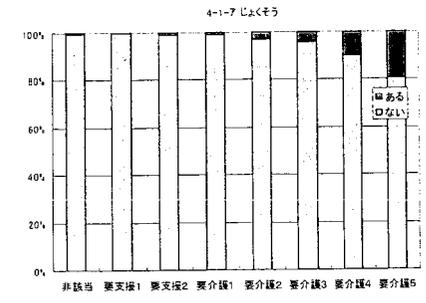
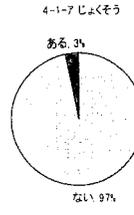
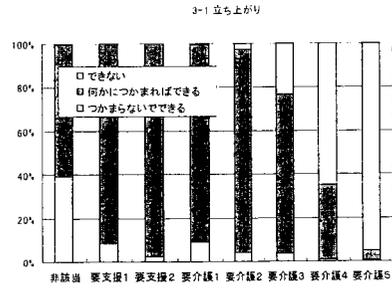
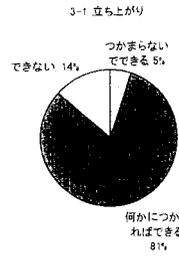


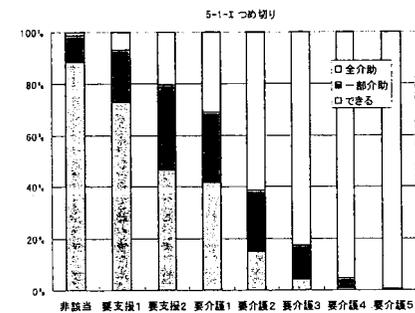
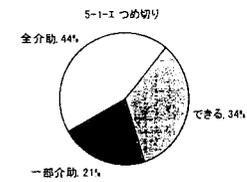
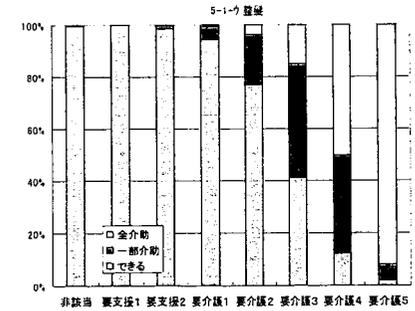
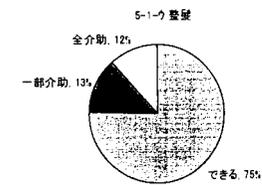
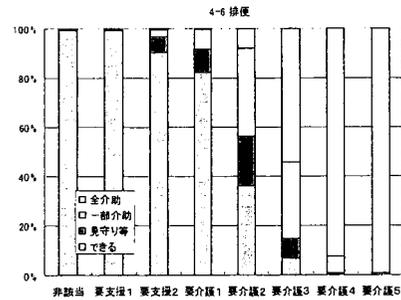
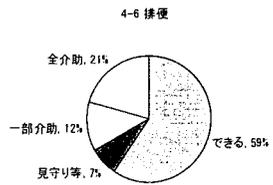
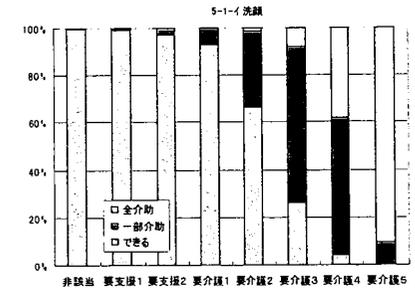
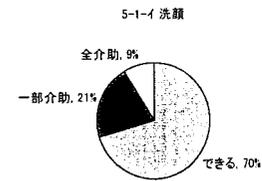
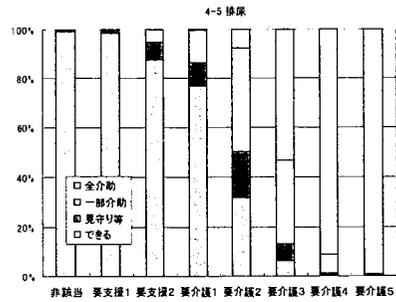
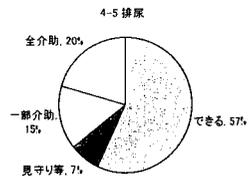
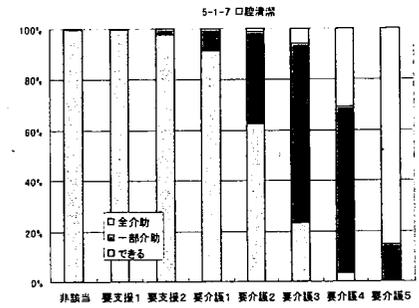
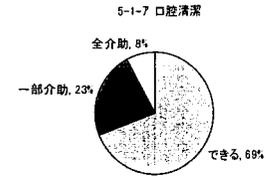
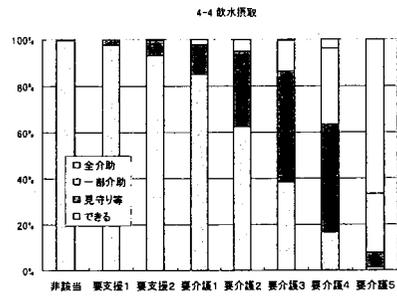
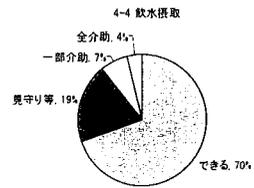
○モデル一次調査結果 ※2次判定が確定している 32,713 件の集計結果

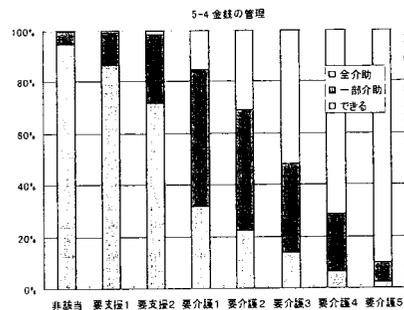
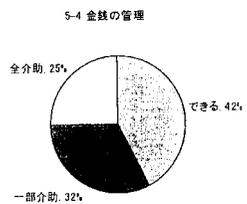
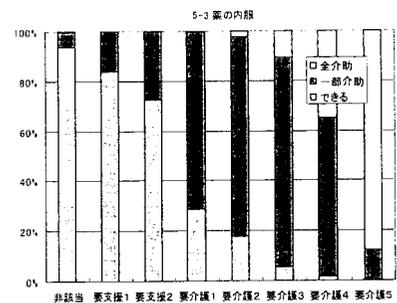
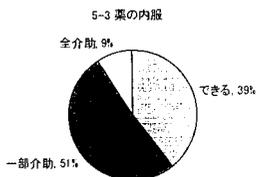
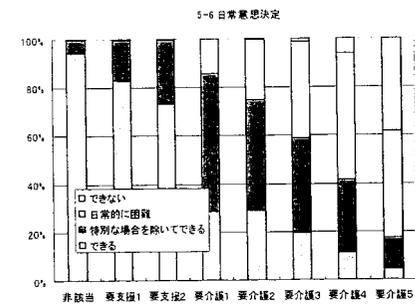
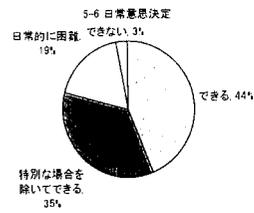
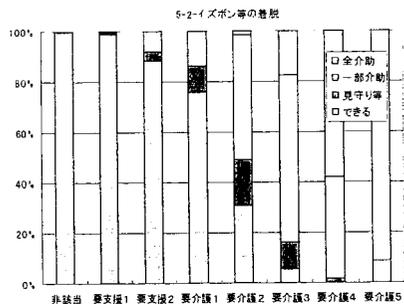
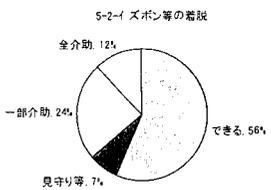
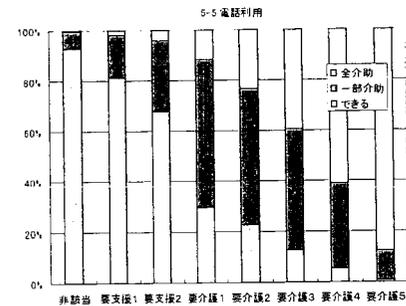
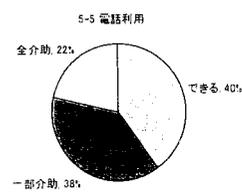
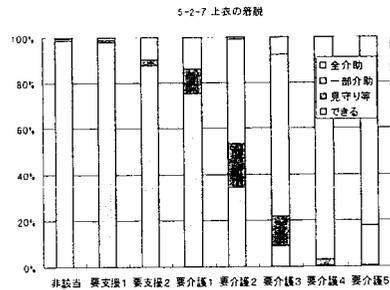
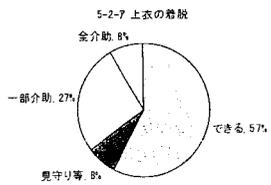


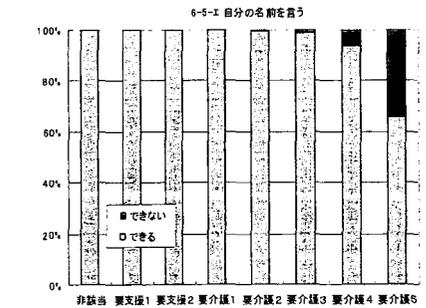
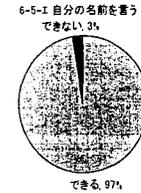
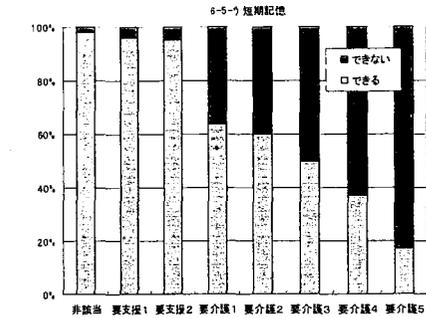
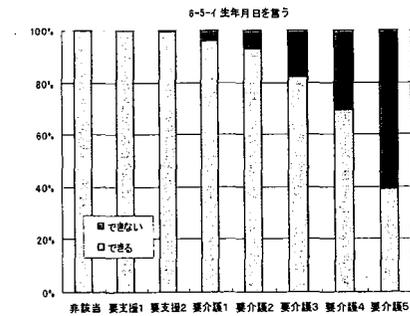
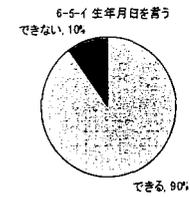
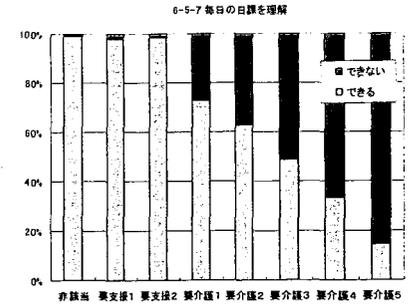
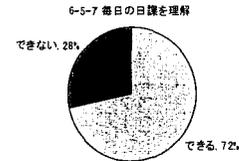
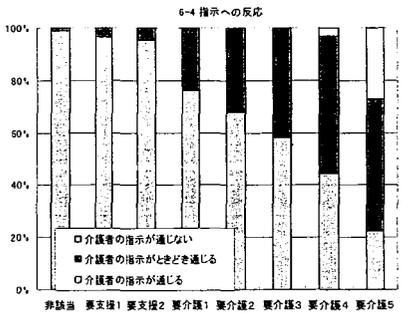
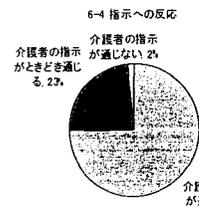
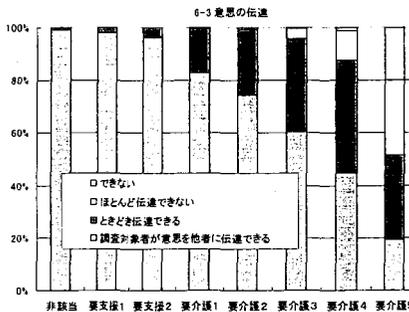
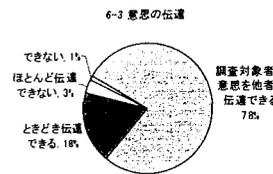
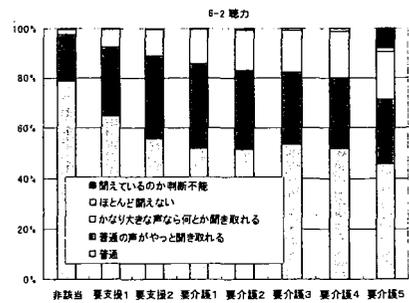
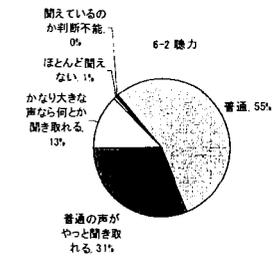
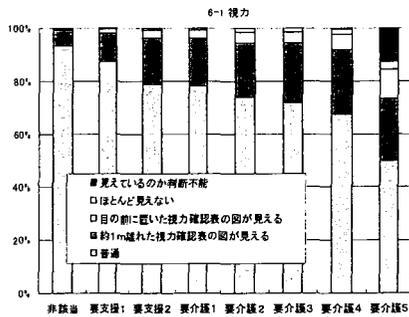
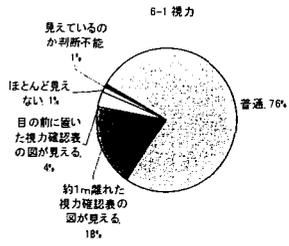


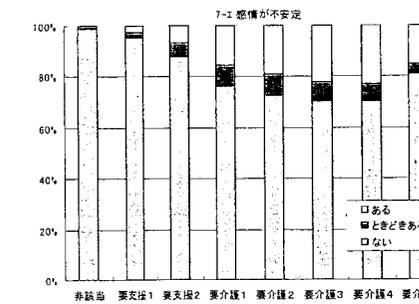
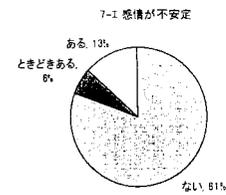
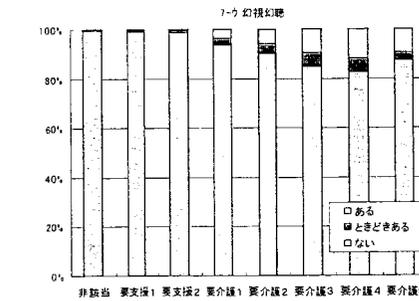
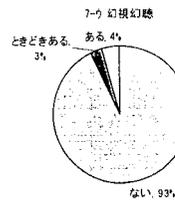
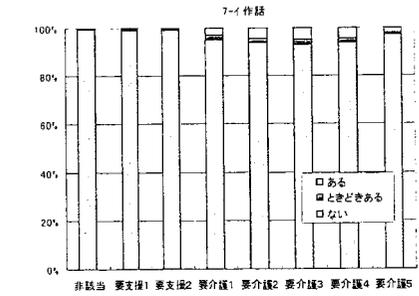
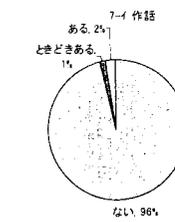
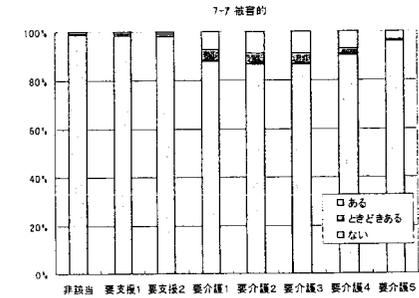
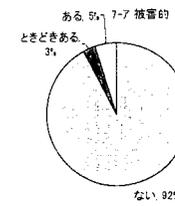
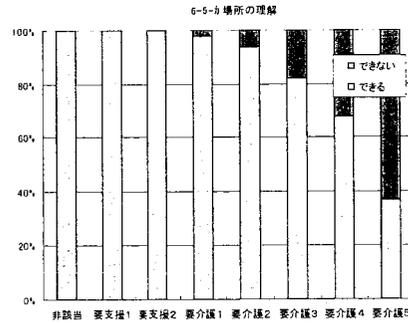
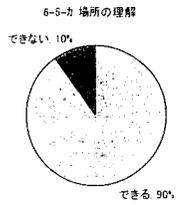
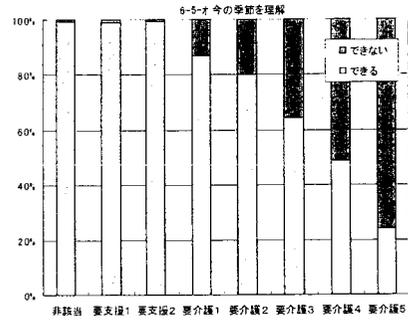
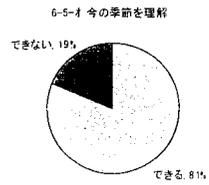


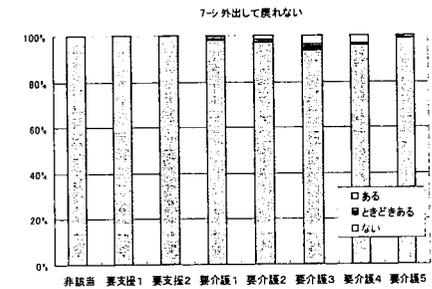
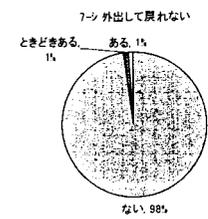
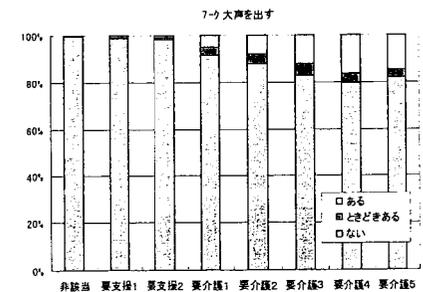
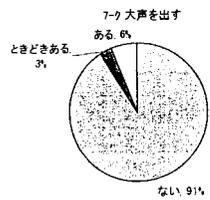
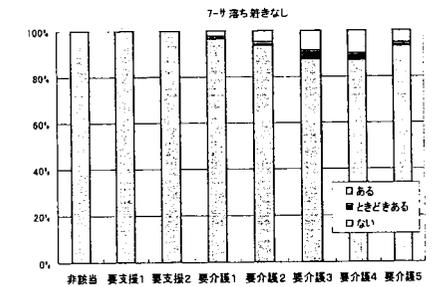
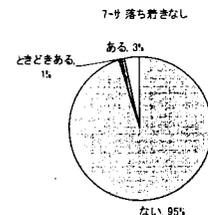
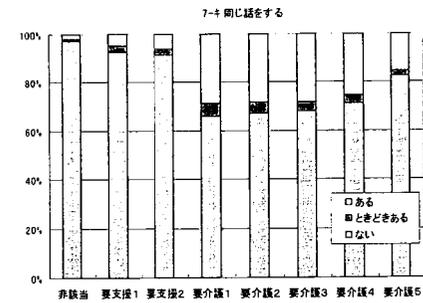
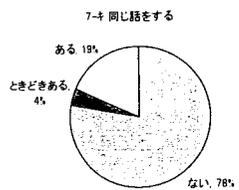
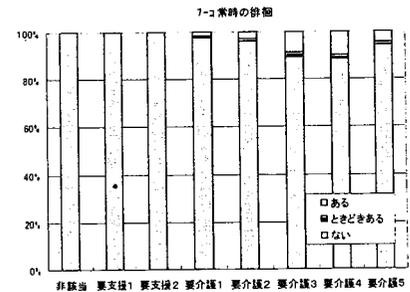
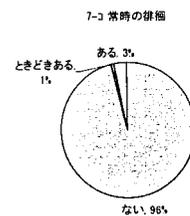
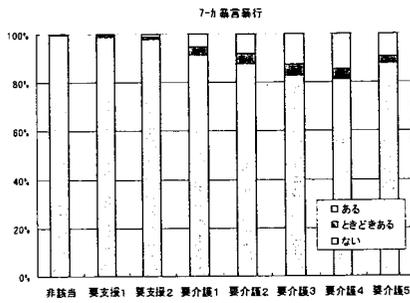
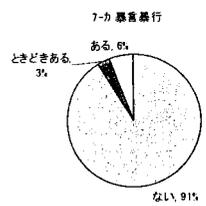
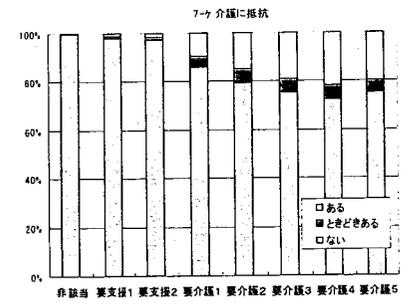
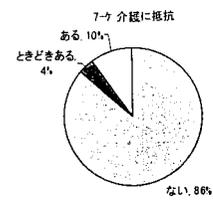
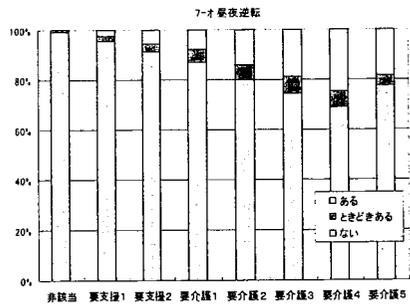
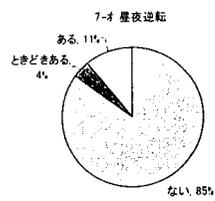




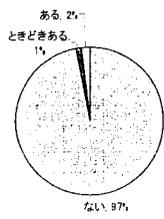




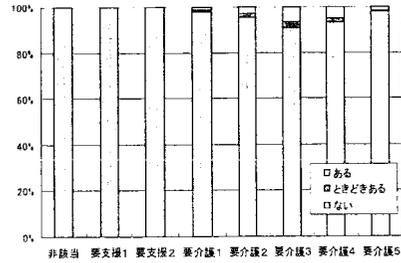




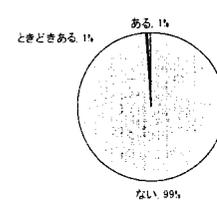
7-ス 一人で出たがる



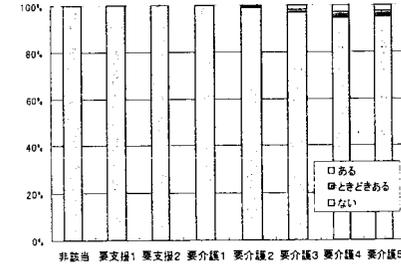
7-ス 一人で出たがる



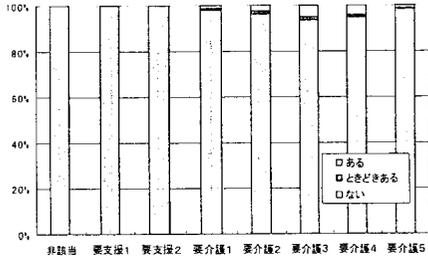
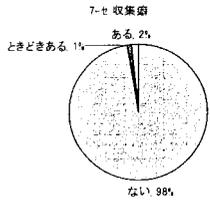
7-チ 不潔行為



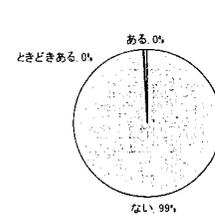
7-チ 不潔行為



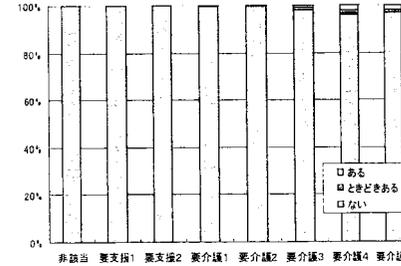
7-セ 収集箱



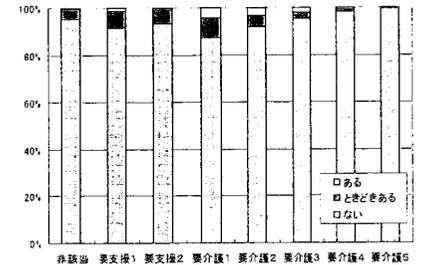
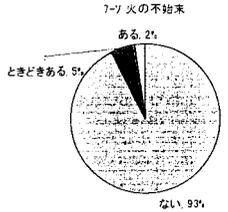
7-ツ 異食行動



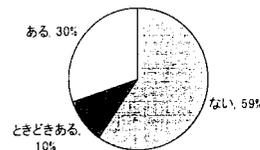
7-ツ 異食行動



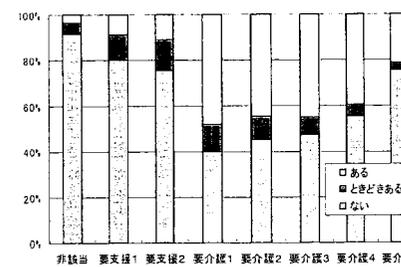
7-フ 火の不始末



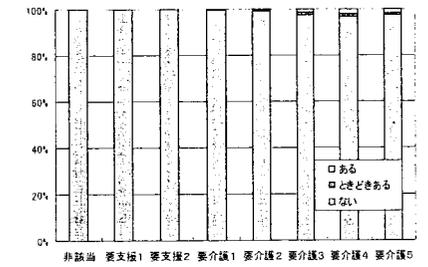
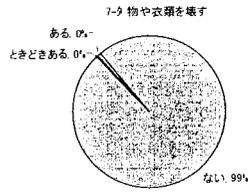
7-ニ ひどい物忘れ

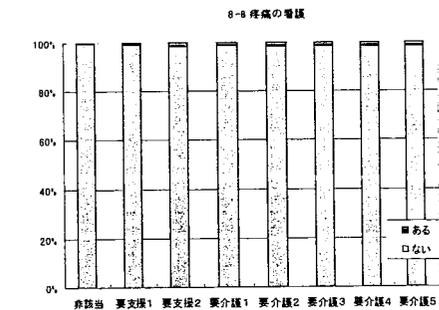
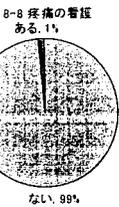
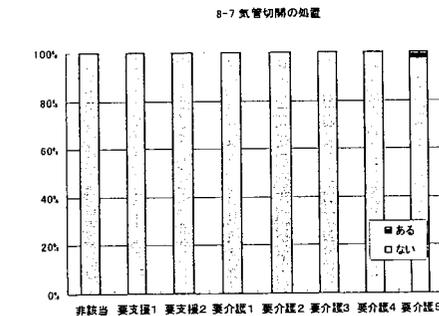
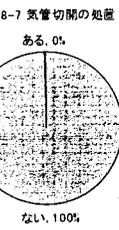
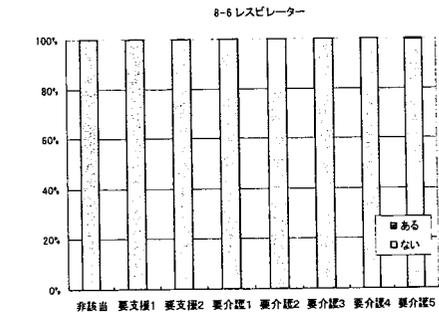
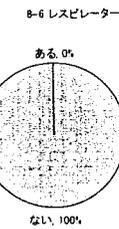
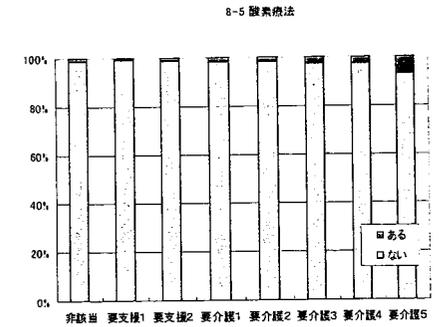
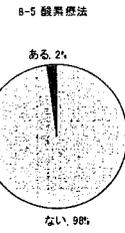
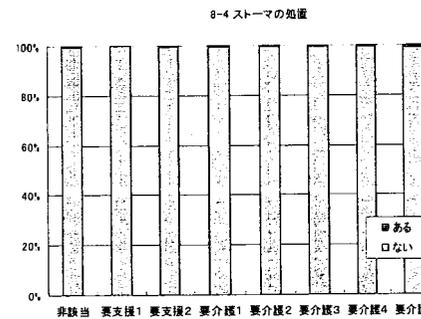
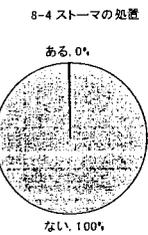
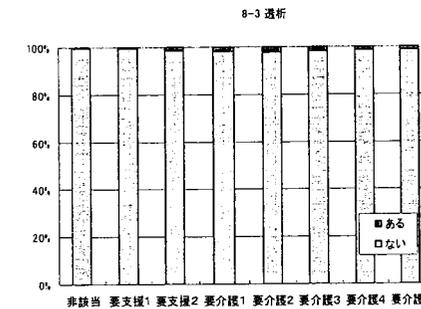
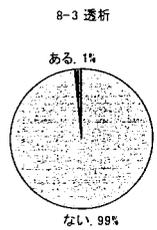
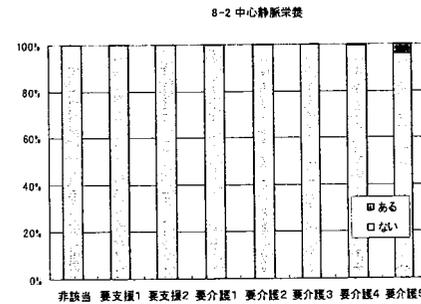
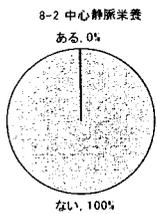
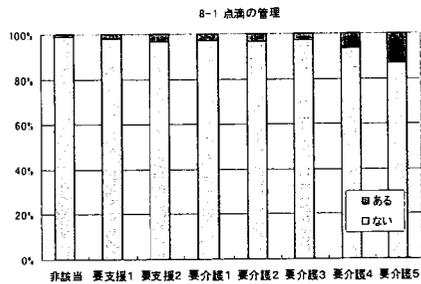
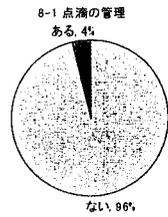


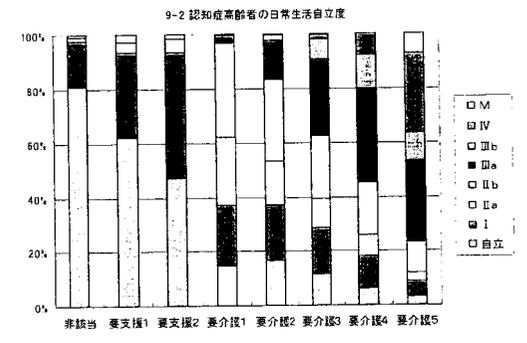
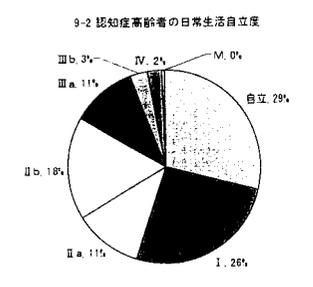
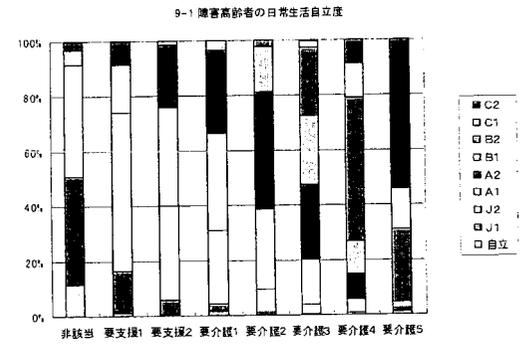
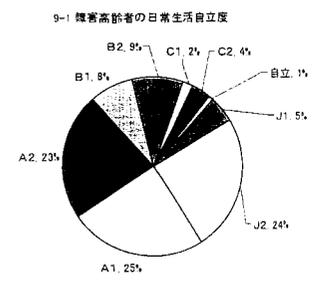
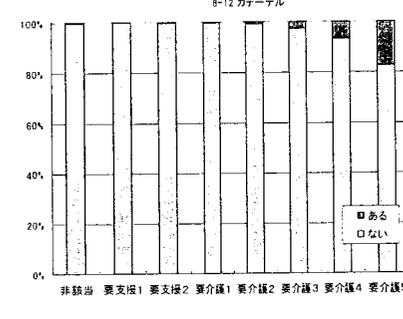
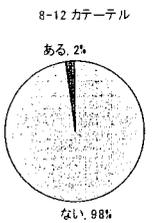
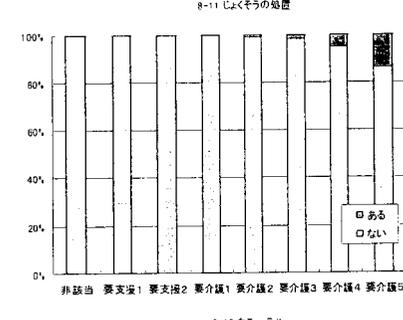
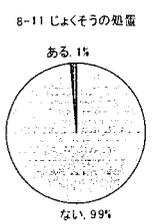
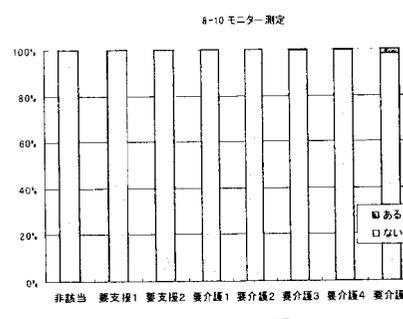
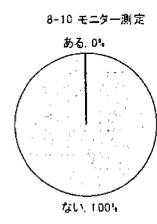
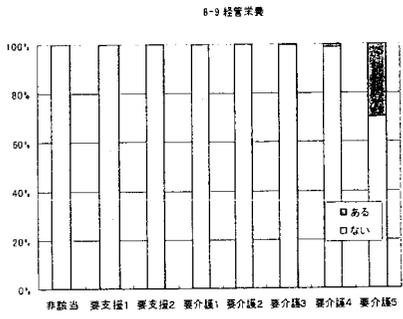
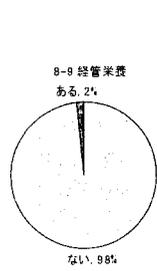
7-ニ ひどい物忘れ

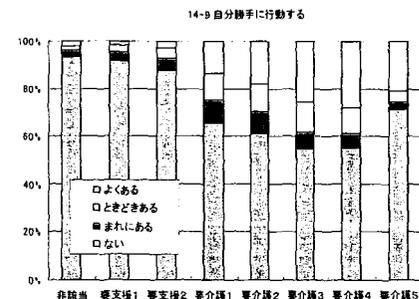
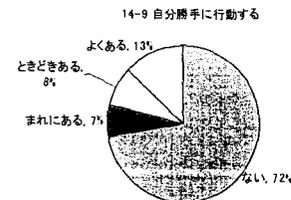
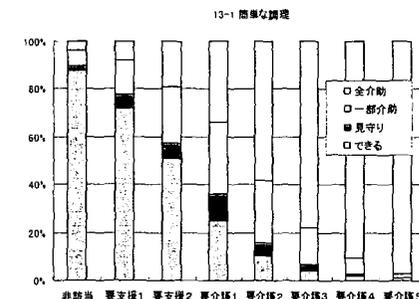
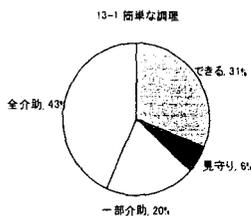
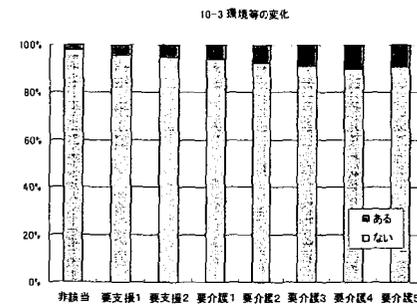
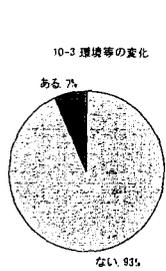
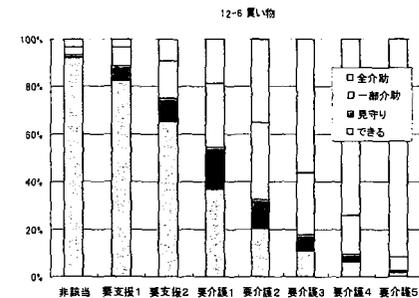
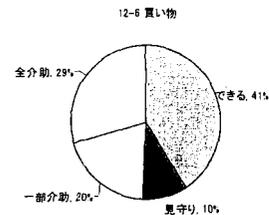
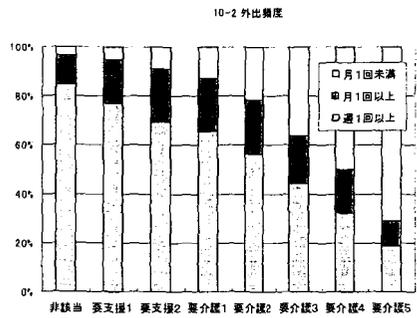
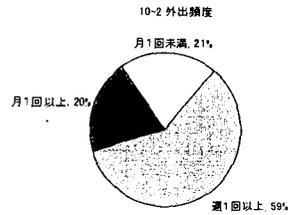
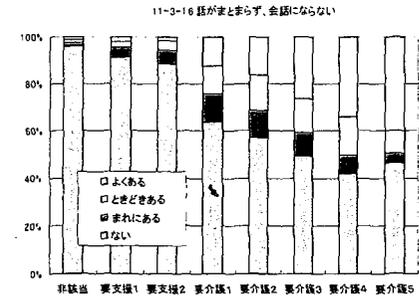
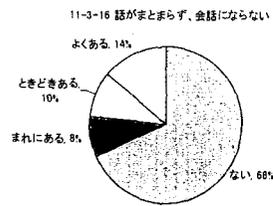
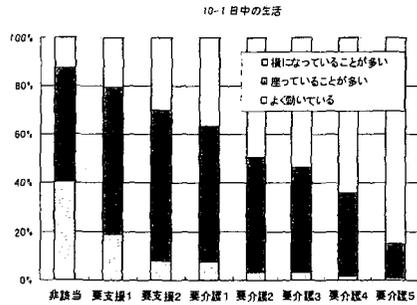


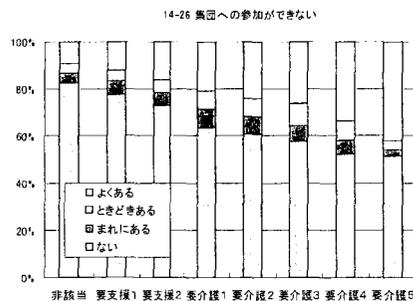
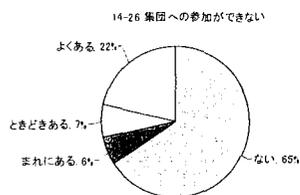
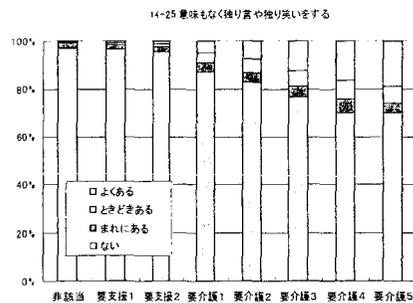
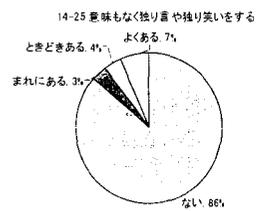
7-ク 物や衣類を壊す











第4回要介護認定調査検討会	資料2-2
H20. 5. 2	

## 調査項目の選定について（1）

樹形図を作成する際、前回の検討会で出された意見を踏まえ、以下の条件から削減する調査項目の候補とする。

### ○選定条件1

要介護（要支援）区分毎の回答構成に差があるかの確認を行い、差のない設問については、要介護（要支援）区分の判定に有効でないことから除外対象とする。

### ○選定条件2

要介護（要支援）区分と回答に付された順序に関係がないか検証し、群間で差がない設問については、要介護（要支援）区分の判定に有効でないことから除外対象とする。

### ○選定条件3

回答（選択肢）別のケア時間に差があるかを確認し、差のない設問については、要介護（要支援）区分の判定に有効でないことから除外対象とする。

### ○選定条件4

回答に著しい偏りがある設問については、要介護（要支援）区分の判定に有効でないことから除外対象とする。

### ○選定条件5

現場で問題点が指摘されている項目を除外対象とする。

## 削減候補

1. 拘縮(肘関節)
2. 拘縮(足関節)
3. じょくそう
4. 皮膚疾患
5. 飲水
6. つめ切り
7. 生年月日を言う
8. 自分の名前を言う
9. 場所の理解
10. 被害的
11. 作話
12. 幻視幻聴
13. 暴言暴行
14. 大声を出す
15. 常時の徘徊
16. 落ち着きなし
17. 外出して戻れない
18. 一人で出たがる
19. 収集癖
20. 火の不始末
21. 物や衣類を壊す
22. 不潔行為
23. 異食行動
24. 環境等の変化

モデル一次データ(32,713件) 項目別回答構成比

第4回要介護認定調査検討会  
H20. 5. 2  
資料2-3

設問	選択肢	割合	9割以上の の優り	設問	選択肢	割合	9割以上の の優り	設問	選択肢	割合	9割以上の の優り
1-1-1 麻痺の有無	1 ない	85%	○	5-1-エ つめ切り	1 できる	34%	○	7-セ 収集癖	1 ない	98%	×
	2 ある	15%			2 一部介助	21%			2 とときどきある	1%	
1-1-2 麻痺(左-上肢)	1 ない	88%	○		3 全介助	44%			3 ある	2%	
	2 ある	12%		5-2-ア 上衣の着脱	1 できる	57%	○	7-ソ 火の不始末	1 ない	93%	×
1-1-3 麻痺(右-上肢)	1 ない	88%	○		2 見守り等	8%			2 とときどきある	5%	
	2 ある	12%			3 一部介助	27%			3 ある	2%	
1-1-4 麻痺(左-下肢)	1 ない	20%	○		4 全介助	8%		7-タ 物や衣類を壊す	1 ない	99%	×
	2 ある	80%		5-2-イ ズボン等の着脱	1 できる	56%	○		2 とときどきある	0%	
1-1-5 麻痺(右-下肢)	1 ない	20%	○		2 見守り等	7%			3 ある	0%	
	2 ある	80%			3 一部介助	24%		7-チ 不潔行為	1 ない	99%	×
1-1-6 麻痺(その他)	1 ない	76%	○		4 全介助	12%			2 とときどきある	1%	
	2 ある	24%		5-3 薬の内服	1 できる	39%	○		3 ある	1%	
1-2-1 拘縮の有無	1 ない	53%	○		2 一部介助	51%		7-ツ 異食行動	1 ない	99%	×
	2 ある	47%			3 全介助	9%			2 とときどきある	0%	
1-2-2 拘縮(肩関節)	1 ない	78%	○	5-4 金銭の管理	1 できる	42%	○		3 ある	0%	
	2 ある	22%			2 一部介助	32%		7-テ ひどい物忘れ	1 ない	59%	○
1-2-3 拘縮(肘関節)	1 ない	93%	×		3 全介助	25%			2 とときどきある	10%	
	2 ある	7%		5-5 電話利用	1 できる	40%	○		3 ある	30%	
1-2-4 拘縮(股関節)	1 ない	89%	○		2 一部介助	38%		8-1 点滴の管理	1 ない	96%	×
	2 ある	11%			5-6 日常意思決定	3 全介助	22%			2 ある	4%
1-2-5 拘縮(膝関節)	1 ない	63%	○	1 できる		44%	○	8-2 中心静脈栄養	1 ない	100%	×
	2 ある	37%		2 特別な場合を除いてできる		35%			2 ある	0%	
1-2-6 拘縮(足関節)	1 ない	92%	×	3 日常的に困難	19%		8-3 透析		1 ない	99%	×
	2 ある	8%		4 できない	3%			2 ある	1%		
1-2-7 拘縮(その他)	1 ない	88%	○	6-1 視力	1 普通	76%	○	8-4 ストーマの処置	1 ない	100%	×
	2 ある	12%			2 約1m離れた視力確認表の図が見える	18%			2 ある	0%	
2-1 寝返り	1 つかまらないうでできる	41%	○		3 目の前に置いた視力確認表の図が見える	4%			8-5 酸素療法	1 ない	98%
	2 何かにつかまればできる	51%			4 ほとんど見えない	1%		2 ある		2%	
	3 できない	8%			5 見えているのか判断不能	1%		8-6 レスビレーター	1 ない	100%	×
2-2 起き上がり	1 つかまらないうでできる	11%	○	6-2 聴力	1 普通	55%	○		2 ある	0%	
	2 何かにつかまればできる	76%			2 普通の声やうと聞き取れる	31%		8-7 気管切開の処置	1 ない	100%	×
	3 できない	14%			3 かなり大きな声なら何とか聞き取れる	13%			2 ある	0%	
2-3 両足での座位	1 できる	44%	○		4 ほとんど聞えない	1%		8-8 疼痛の看護	1 ない	99%	×
	2 自分の手で支えればできる	34%			5 聞えているのか判断不能	0%			2 ある	1%	
	3 支えてもらえればできる	20%		6-3 意思の伝達	1 調査対象者が意思を他者に伝達できる	78%	○		8-9 経管栄養	1 ない	98%
	4 できない	2%			2 とときどき伝達できる	18%		2 ある		2%	
2-4 両足での立位	1 支えなしでできる	50%	○		3 ほとんど伝達できない	3%		8-11 モニター測定	1 ない	100%	×
	2 何か支えがあればできる	38%			4 できない	1%			2 ある	0%	
	3 できない	11%		6-4 指示への反応	1 介護者の指示が通じる	75%	○		8-12 じょくそうの処置	1 ない	99%
2-5 歩行	1 つかまらないうでできる	29%	○		2 介護者の指示がときどき通じる	23%		2 ある		1%	
	2 何かにつかまればできる	53%			3 介護者の指示が通じない	2%		8-13 カテーテル	1 ない	98%	×
	3 できない	18%		6-5-ア 毎日の日課を理解	1 できる	72%	○		2 ある	2%	
2-6 移乗	1 できる	69%	○		2 できない	28%		9-1 寝たきり度	1 自立	1%	
	2 見守り等	14%		6-5-イ 生年月日を言う	1 できる	90%	×		2 J1	5%	
	3 一部介助	9%			2 できない	10%			3 J2	24%	
	4 全介助	8%		6-5-ウ 短期記憶	1 できる	69%	○		4 A1	25%	
2-7 移動	1 できる	61%	○		2 できない	31%			5 A2	23%	
	2 見守り等	18%		6-5-エ 自分の名前を言う	1 できる	97%	×		6 B1	8%	
	3 一部介助	8%			2 できない	3%			7 B2	9%	
	4 全介助	13%		6-5-オ 今の季節を理解	1 できる	81%	○		8 C1	2%	
3-1 立ち上がり	1 つかまらないうでできる	5%	○		2 できない	19%			9 C2	4%	
	2 何かにつかまればできる	81%		6-5-カ 場所の理解	1 できる	90%	×	9-2 認知度	1 自立	29%	
	3 できない	14%			2 できない	10%			2 I	26%	
3-2 片足での立位	1 支えなしでできる	12%	○	7-ア 被害的	1 ない	92%	×		3 II a	11%	
	2 何か支えがあればできる	64%			2 とときどきある	3%			4 II b	18%	
	3 できない	23%			3 ある	5%			5 III a	11%	
3-3 洗身	1 できる	34%	○	7-イ 作話	1 ない	96%	×		6 III b	3%	
	2 一部介助	44%			2 とときどきある	1%			7 IV	2%	
	3 全介助	19%			3 ある	2%			8 M	0%	
	4 行っていない	3%		7-ウ 幻視幻聴	1 ない	93%	×		10-1 日中の生活	1 よく動いている	8%
4-1-ア じょくそう	1 ない	97%	×		2 とときどきある	3%		2 座っていることが多い		51%	
	2 ある	3%			7-エ 感情が不安定	3 ある	4%			3 横になっていることが多い	41%
4-1-イ 皮膚疾患	1 ない	68%	○	1 ない		81%	○	10-2 外出頻度	1 週1回以上	59%	○
	2 ある	32%		2 とときどきある		6%			2 月1回以上	20%	
4-2 嚥下	1 できる	82%	○	3 ある	13%		3 月1回未満		21%		
	2 見守り等	16%		7-オ 昼夜逆転	1 ない	85%	○	10-3 環境等の変化	1 ない	93%	×
	3 できない	2%			2 とときどきある	4%			2 ある	7%	
4 全介助	4%		3 ある		11%		11-3-16 話がまとま		1 ない	68%	○
4-3 食事摂取	1 できる	81%	○	7-カ 暴言暴行	1 ない	91%		×	2 まれにある	8%	
	2 見守り等	8%			2 とときどきある	3%			3 とときどきある	10%	
	3 一部介助	7%			3 ある	6%			4 よくある	14%	
	4 全介助	4%		7-キ 同じ話をする	1 ない	78%	○	12-6 買い物	1 できる	41%	○
4-4 飲水	1 できる	70%	○		2 とときどきある	4%			2 見守り	10%	
	2 見守り等	19%			3 ある	19%			3 一部介助	20%	
	3 一部介助	7%		7-ク 大声を出す	1 ない	91%	×		4 全介助	29%	
	4 全介助	4%			2 とときどきある	3%		13-1 簡単な調理	1 できる	31%	○
4-5 排泄	1 できる	57%	○		3 ある	6%			2 見守り	6%	
	2 見守り等	7%		7-ク 介護に抵抗	1 ない	86%	○		3 一部介助	20%	
	3 一部介助	15%			2 とときどきある	4%			4 全介助	43%	
	4 全介助	20%			3 ある	10%		14-9 自分勝手に行動	1 ない	72%	○
4-6 排便	1 できる	59%	○	7-コ 常時の徘徊	1 ない	96%	×		2 まれにある	7%	
	2 見守り等	7%			2 とときどきある	1%			3 とときどきある	8%	
	3 一部介助	12%			3 ある	3%			4 よくある	13%	
	4 全介助	21%		7-サ 落ち着きなし	1 ない	95%	×	14-25 意味もなく独	1 ない	86%	○
5-1-ア 口腔清潔	1 できる	69%	○		2 とときどきある	1%			2 まれにある	3%	
	2 一部介助	23%			3 ある	3%			3 とときどきある	4%	
	3 全介助	8%		7-シ 外出して戻れない	1 ない	98%	×		4 よくある	7%	
5-1-イ 洗顔	1 できる	70%	○		2 とときどきある	1%		14-26 集団への参	1 ない	65%	○
	2 一部介助	21%			3 ある	1%			2 まれにある	6%	
	3 全介助	9%		7-ス 一人で出たがる	1 ない	97%	×		3 とときどきある	7%	
5-1-ウ 整髪	1 できる	75%	○		2 とときどきある	1%			4 よくある	22%	
	2 一部介助	13%			3 ある	2%					
	3 全介助	12%									

## 調査項目の選定について(2)

設問		①X検定	②KW検定	③分散分析	④ 偏りがない(回答傾向 が90%未満)	⑤現場から問 題点が指摘さ れている項目
1-1-1	麻痺の有無					
1-1-2	麻痺(左-上肢)					
1-1-3	麻痺(右-上肢)					
1-1-4	麻痺(左-下肢)					
1-1-5	麻痺(右-下肢)					
1-1-6	麻痺(その他)					
1-2-1	拘縮の有無					
1-2-2	拘縮(肩関節)					
1-2-3	拘縮(肘関節)				×	
1-2-4	拘縮(股関節)					
1-2-5	拘縮(膝関節)					
1-2-6	拘縮(足関節)				×	
1-2-7	拘縮(その他)					
2-1	寝返り					
2-2	起き上がり					
2-3	両足での座位					
2-4	両足での立位					
2-5	歩行					
2-6	移乗					
2-7	移動					
3-1	立ち上がり					
3-2	片足での立位					
3-3	洗身					
4-1-ア	じょくそう				×	
4-1-イ	皮膚疾患					×
4-2	嚥下					
4-3	食事摂取					
4-4	飲水					×
4-5	排尿					
4-6	排便					
5-1-ア	口腔清潔					
5-1-イ	洗顔					
5-1-ウ	整髪					
5-1-エ	つめ切り					×
5-2-ア	上衣の着脱					
5-2-イ	ズボン等の着脱					
5-3	薬の内服					
5-4	金銭の管理					
5-5	電話利用					
5-6	日常意思決定					
6-1	視力					
6-2	聴力					
6-3	意思の伝達					
6-4	指示への反応					
6-5-ア	毎日の日課を理解					
6-5-イ	生年月日を言う				×	

設問		① X 検定	② KW検定	③分散分析	④ 偏りがない(回答傾向 が90%未満)	⑤現場から問 題点が指摘さ れている項目
6-5-ウ	短期記憶					
6-5-エ	自分の名前を言う				×	
6-5-オ	今の季節を理解					
6-5-カ	場所の理解				×	
7-ア	被害的				×	
7-イ	作話			×	×	
7-ウ	幻視幻聴				×	
7-エ	感情が不安定					
7-オ	昼夜逆転					
7-カ	暴言暴行			×	×	
7-キ	同じ話をする					
7-ク	大声を出す				×	
7-ケ	介護に抵抗					
7-コ	常時の徘徊			×	×	
7-サ	落ち着きなし			×	×	
7-シ	外出して戻れない			×	×	
7-ス	一人で出たがる				×	
7-セ	収集癖				×	
7-ソ	火の不始末				×	×
7-タ	物や衣類を壊す		×		×	
7-チ	不潔行為				×	
7-ツ	異食行動				×	
7-テ	ひどい物忘れ					
8-1	点滴の管理				×	
8-2	中心静脈栄養	×	×		×	
8-3	透析	×	×		×	
8-4	ストーマの処置	×	×		×	
8-5	酸素療法	×	×		×	
8-6	レスピレーター	×	×		×	
8-7	気管切開の処置	×	×		×	
8-8	疼痛の看護	×	×		×	
8-9	経管栄養				×	
8-11	モニター測定	×	×		×	
8-12	じょくそうの処置				×	
8-13	カテーテル				×	
9-1	寝たきり度					
9-2	認知度					
10-1	日中の生活					
10-2	外出頻度					
10-3	環境等の変化	×	×	×	×	
11-3-16	話がまとまらず、会話にならない					
12-6	買い物					
13-1	簡単な調理					
14-9	自分勝手に行動する					
14-25	意味もなく独り言や独り笑いをする					
14-26	集団への参加ができない					

## 樹形図の使用項目数を変更した場合の決定係数の比較

## 【モデル作成条件】

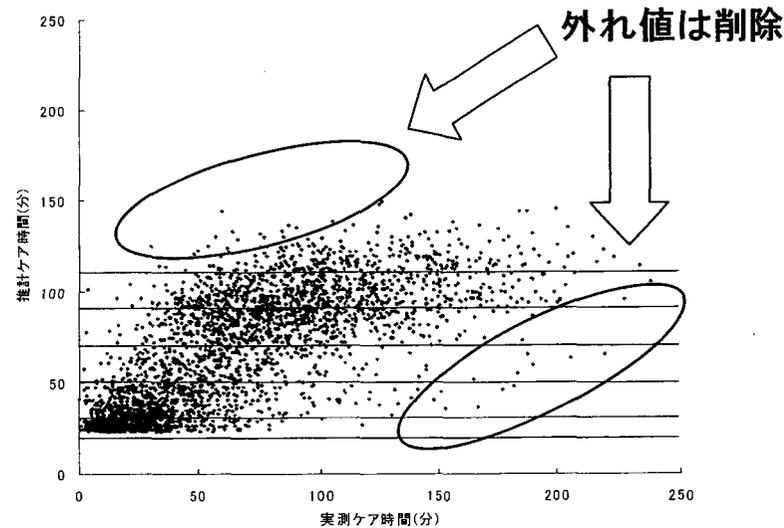
- ・樹形図作成項目の元：現在の要介護認定項目（1群～7群）+3項目（10群）+追加項目6項目（モデル一次調査）
- ・樹形図は9本作成：大分類0（対象者に直接関わらない業務）の推計値を除く
- ・最終分岐の最小人数を40人に設定（現在の一次判定と同様）
- ・中間評価項目は使用しない

0項目削除	24項目削除
削除なし	1 拘縮（肘関節） 2 拘縮（足関節） 3 じょくそう 4 皮膚疾患 5 飲水 6 つめ切り 7 生年月日をいう 8 自分の名前をいう 9 場所の理解 10 被害的 11 作話 12 幻視幻聴 13 暴言暴行 14 大声をだす 15 常時の徘徊 16 落ち着きなし 17 外出して戻れない 18 一人で出たがる 19 収集癖 20 火の不始末 21 物や衣類を壊す 22 不潔行為 23 異食行動 24 環境等の変化
決定係数=0.478	決定係数=0.479

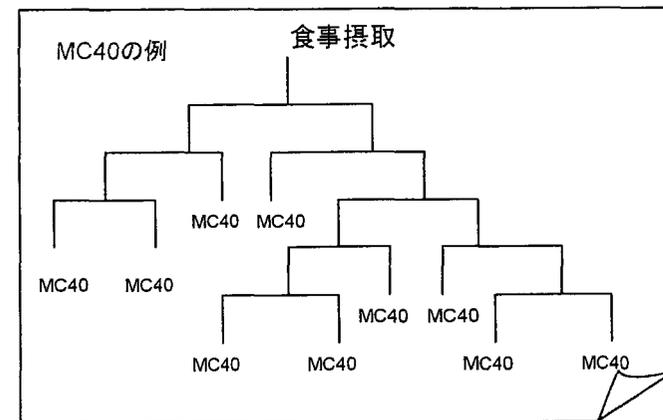
※0項目削除の場合も、樹形図に出現しない項目は存在する

# 樹形図の作成方針について

- 外れ値を除外
- ケア時間が多いグループと少ないグループに分ける  
最も効果的な調査項目を選定
- 末端のサンプル数は最低40
- 中間評価項目得点を追加



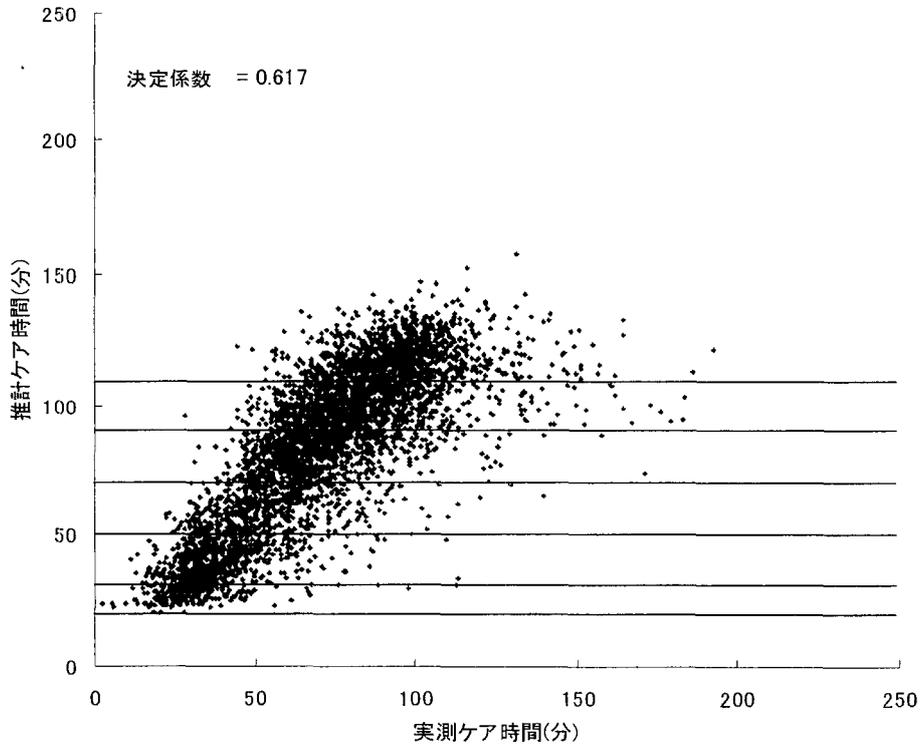
樹形図作成のイメージ



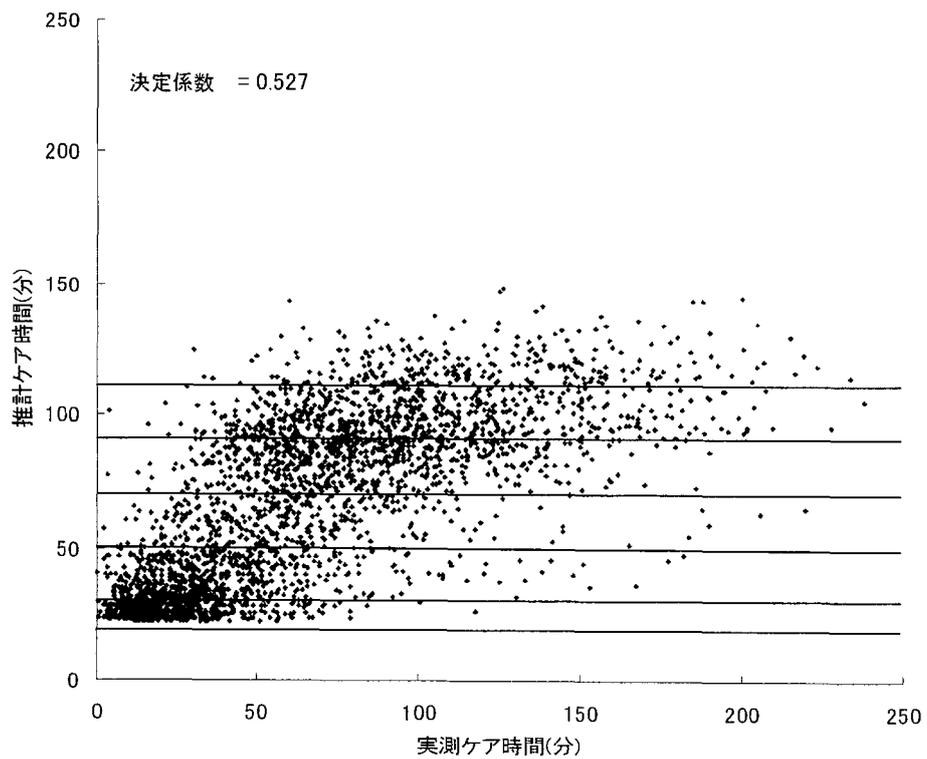
MCは樹形図の末端の枝にあるデータ数(MC40は末端に40のデータがある)

現行及び平成12年度の樹形モデルによる寄与率

○平成 15 年度モデル



○平成 12 年度モデル



# 要介護1相当の振り分け方針について

現行は一次判定で要介護1相当と判定された事例は、審査会において、次の要件、を満たす場合要介護1としそれ以外を要支援2と判定している

1. 認知機能や思考・感情等の障害により、十分な説明をおこなってもなお、新予防給付の利用に係る適切な理解が困難である
2. 疾病や外傷等により、心身の状態が安定していない状態

要介護1相当に係る振り分けを一次判定で行うことについて

要介護1相当の振り分け方針について

- 認知機能の低下の判定について
  - 主治医と認定調査員の認知症自立度の評価が一致している場合その評価を採用
  - 主治医と認定調査員の認知症自立度の評価が一致していない場合は、現行でも用いている、認知症自立度評価ロジックの考え方を踏襲
- 状態の不安定性の判定について
  - 判別分析を用いて、2回目の判定で重度化している高齢者と状態が維持・改善している高齢者を比較分析する
  - 要介護認定を2回実施した者のうち、1回目の認定で要介護1又は要支援2と判定された高齢者165,514人のデータを使用

## 「認知機能・廃用の程度の評価結果」におけるコンピュータにより推定される給付区分について

- コンピュータによる認知症高齢者の日常生活自立度等を用いた給付区分の推定結果の具体的な表示方法は以下のとおりです。
  - ① 「認知症高齢者の日常生活自立度」において、認定調査結果と主治医意見書の結果がともに「Ⅱ以上Mまで」の場合には「介護給付相当」と提示し、介護認定審査会資料に表示します。
  - ② 「認知症高齢者の日常生活自立度」において、認定調査結果と主治医意見書の結果が一致しない場合、「認知症自立度評価ロジック」における「自立又はⅠ」の蓋然性がD「25%未満」又はC「25%以上50%未満」の場合には「Ⅱ以上Mまで」の蓋然性が高いとして「介護給付相当」と提示し、介護認定審査会資料に表示します。(参考1)
  - ③ 「認知症高齢者の日常生活自立度」において、認定調査結果と主治医意見書の結果がともに「自立又はⅠ」の場合、又はその結果が一致しない場合で「認知症自立度評価ロジック」における「自立又はⅠ」の蓋然性がA「75%以上」又はB「50%以上75%未満」の場合には、認定調査のうち廃用の程度に関する項目の結果の組み合わせから、廃用の程度の提示をコンピュータにより行い、その結果をもとに給付区分を提示し、介護認定審査会資料に表示します。(参考2)

## 「認知症自立度評価ロジック」の仕組みについて

○ 「認知症自立度評価ロジック」は、現行の一次判定ロジックと同様に、樹形モデルを使用して作成されています。分岐の条件は、一次判定に使用しているものと同じく心身の状態に関する調査項目ですが、グループを分割する数値にはタイムスタディで得られたケア時間ではなく、「認知症高齢者の日常生活自立度」を使用しています。

○ 樹形作成手順は以下のとおりです。

### ① 原樹形の作成

- ・対象データは、平成16年3月に認定申請のあった事例のうち、認定支援センターに報告があったもの、447,659件。
- ・目的変数に「認知症高齢者の日常生活自立度」、説明変数に心身の状態に関する認定調査項目（67項目）を設定し、CHAID（ $\chi^2$ 乗値を指標とした樹形分析）を施行。その際、「認知症高齢者の日常生活自立度」については、＜自立又はIの群＞と＜IIa以上Mまでの群＞の2群にあらかじめ分類しました。また、分岐条件として、「分岐先の該当人数が442（総数の0.1%）名以上であること」を設定しました。

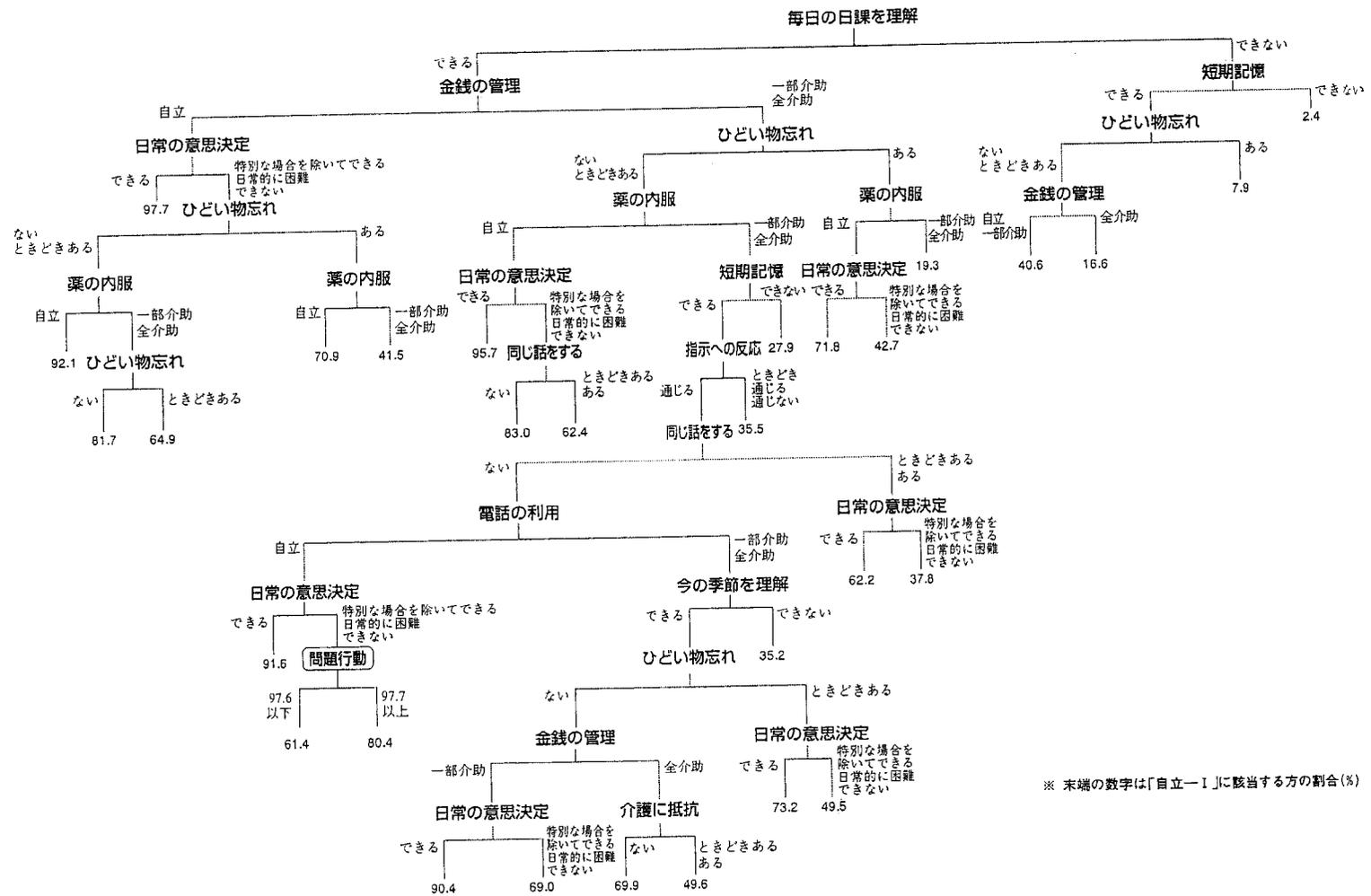
### ② 交差検証

- ・原樹形作成後に交差検証を行ったところ、標準推定誤差は0.0004であり、安定性が認められました。
- ・交差検証とは、対象データを任意のn群に分割（今回はn=10とした）し、まず1番目の群を対象から外して樹形分析を実施、次に2番目を外して実施・・・をn番目まで繰り返し、それぞれにできあがった樹形モデルの一致度をみることにより、樹形の安定性を検証することです。
- ・標準推定誤差は、n個の樹形におけるそれぞれの分岐のばらつきを平均値で示したものです。数値が小さいほど、ばらつきは少ないと判断されますが、今回の数値は1/1,000以下であることから、十分安定したものと判断しました。

### ③ 樹形図の最終決定

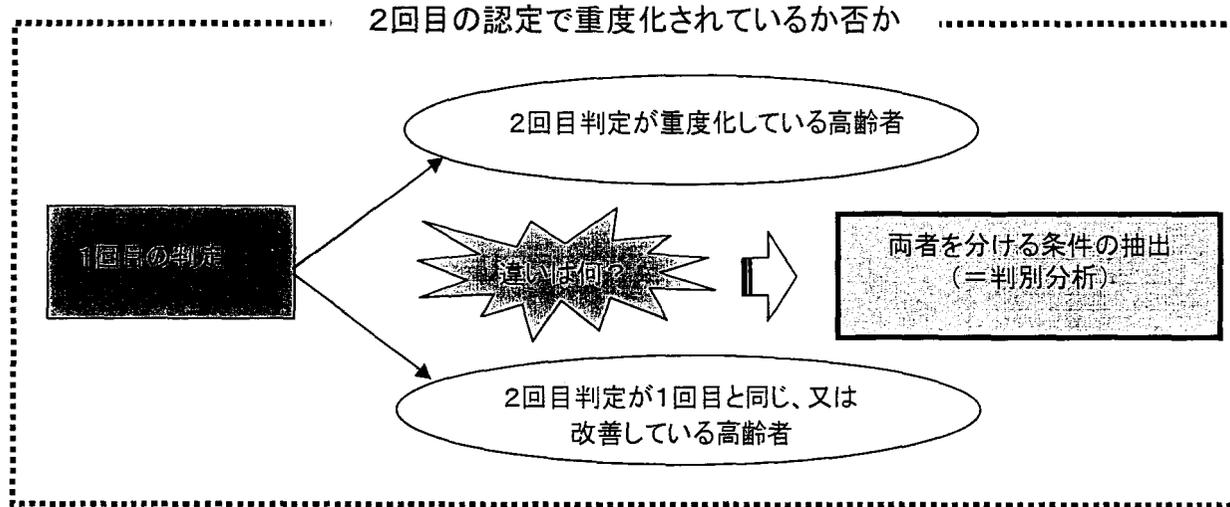
- ・＜自立又はIの群＞の割合がそれぞれA「75%以上」、B「50%以上75%未満」、C「25%以上50%未満」、D「25%未満」であって、それより下位のどの枝においても、割合の群が変わらない場合は、それより下位の枝を削除しました。

(図) 認知症自立度評価ロジック

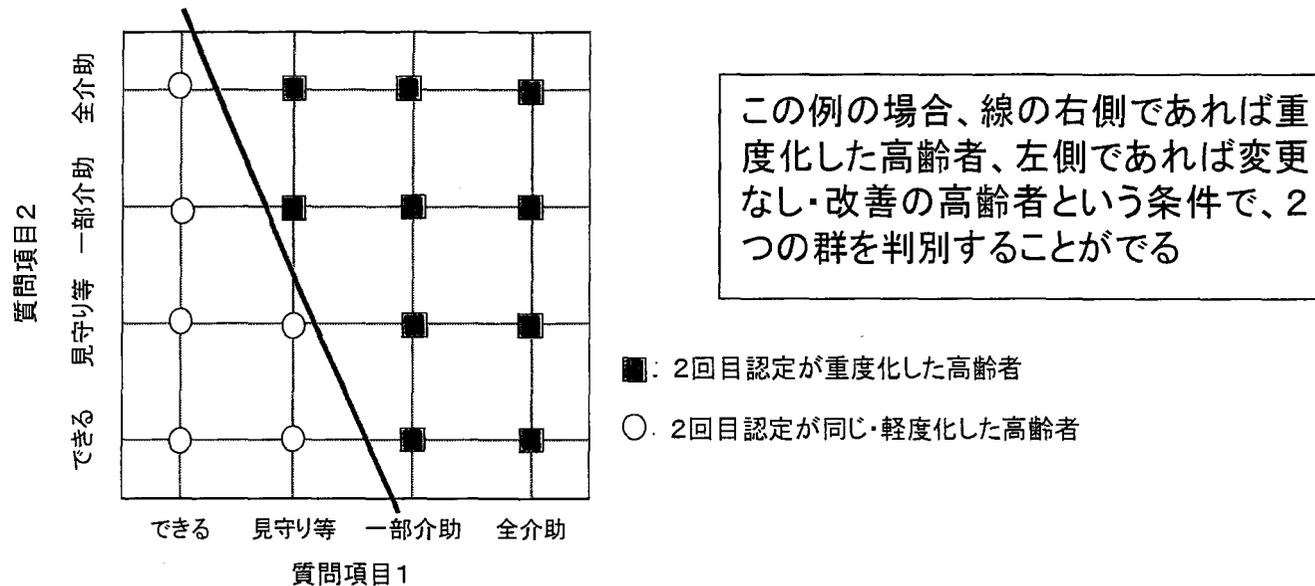


# 状態の安定性の判定について

要介護認定を2回実施した者のうち、1回目の認定で要介護1又は要支援2と判定された高齢者(165,514人)を、2回目の認定で1回目より重度に判定された群と、2回目の認定が1回目と同じ、又は維持改善が見られた群の2群に分けて、比較(判別分析)。2回目の認定で重度化する群を状態不安定、維持・改善している群を状態安定と判定する。



判別分析は、元のグループをある条件のもと2つのグループに分ける統計手法である。条件となる認定調査項目の組み合わせにより、対象となる高齢者が、2回目の判定時に判定が重度化している高齢者か、初回認定と同じ又は改善されている高齢者かを判別することができる。

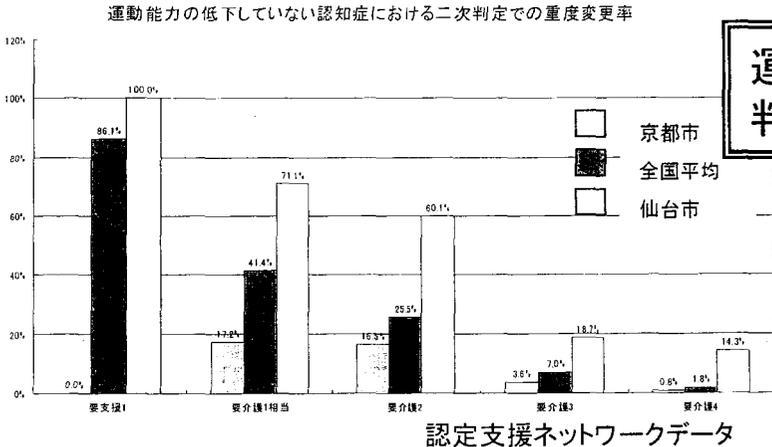


# 運動機能の低下していない認知症高齢者の指標の改定案について

経緯: 運動能力の低下していない認知症: 一次判定で適切に判定されていないという指摘



重度変更されることが多い特性を同定し、平成15年度より、それらの特性を伴う運動能力の低下していない認知症について自動的に重度化するシステムを追加



運動能力が低下していない認知症の二次判定での重度変更は地域格差が見られる

原因: 審査会においては基準時間を基に二次判定を行うルールとなっているが、運動能力の低下していない認知症の一次判定は基準時間と関係がないため、同ルールが適用できない  
従って、審査会委員が独自のルールで変更を行っている

対策: 自動的に要介護状態区分を重度化する方式  
↓  
基準時間を積み足す方式

現行

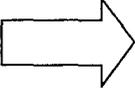
平成21年度以降

1 一次判定等  
この分数は、実際のケア時間を示すものではない

一次判定結果 : **要介護2 → 要介護3**

要介護認定等基準時間 : **59.9分**

食事	排泄	移動	清潔保持	間接	問題行動	機能訓練	医療関連
0.7分	26.3分	2.7分	16.5分	3.6分	1.1分	1.5分	7.5分



1 一次判定等  
この分数は、実際のケア時間を示すものではない

一次判定結果 : **要介護2 → 要介護3**

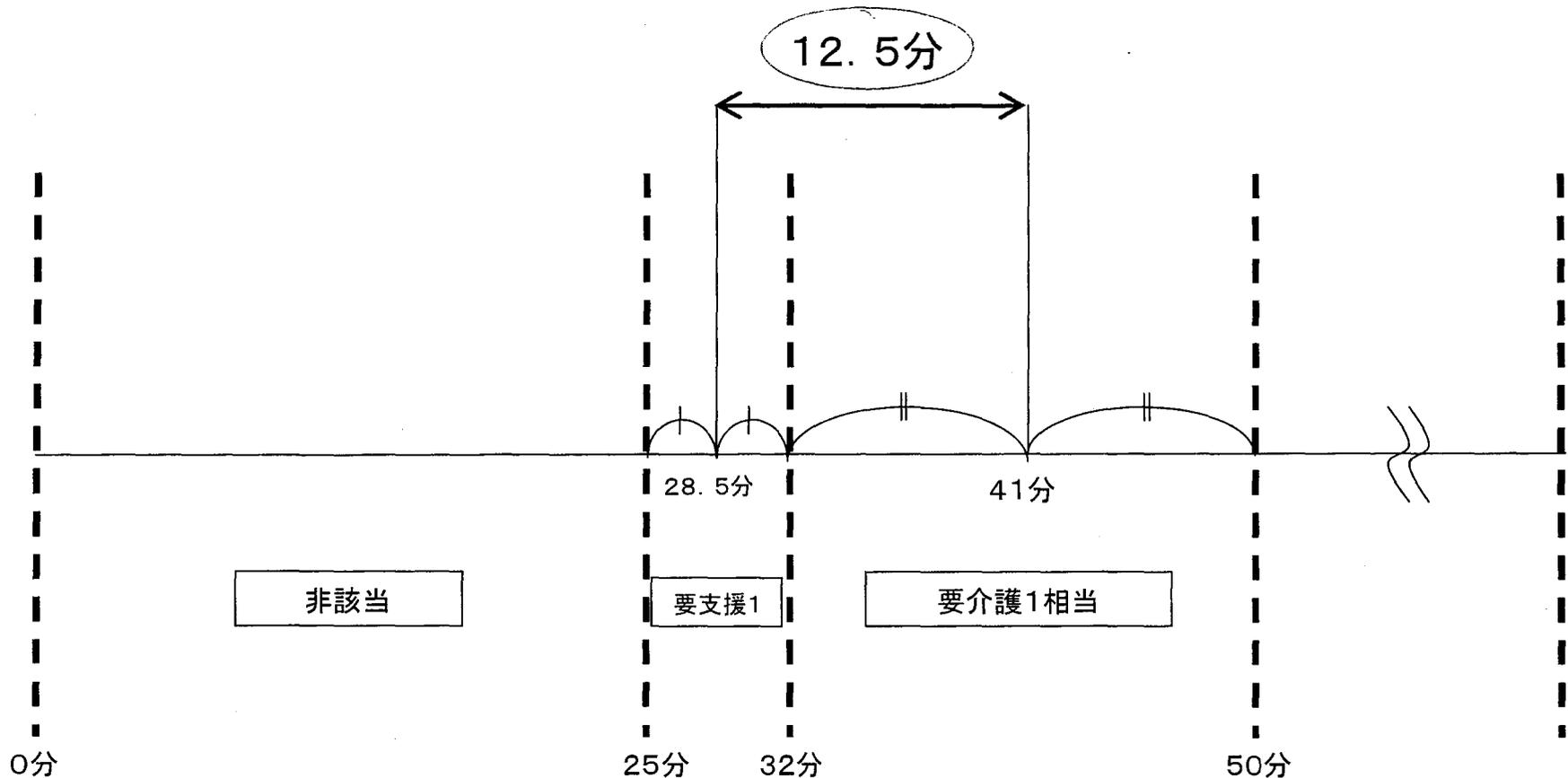
要介護認定等基準時間 : **59.9分 + 20.0分 = 79.9分**

食事	排泄	移動	清潔保持	間接	問題行動	機能訓練	医療関連
0.7分	26.3分	2.7分	16.5分	3.6分	1.1分	1.5分	7.5分

現在の要介護認定制度では、一定の要件を満たした運動機能の低下していない認知症高齢者に対して、一次判定における要介護状態区分を1つまたは2つ重度に変更できる指標が設けられているところ。

しかしながら、この指標による重度変更では、要介護認定の基準である基準時間を全く考慮せず一次判定結果が変更されており、問題があると考えられることから、一定の要件を満たした運動機能の低下していない認知症高齢者に対して、指標により一律に一次判定における要介護状態区分を変更するのではなく、基準時間を足す方式への変更を行う。

介護状態区分の中間点の差を加算する。

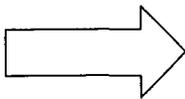


## 特別な医療にかかる時間の修正

現在の設定されている特別な医療にかかる時間

	時間 (分)
点滴	8.5
中心静脈栄養	8.5
透析	8.5
ストーマの処置	3.8
酸素療法	0.8
レスピレーター	4.5
気管切開の処置	5.6
疼痛の看護	2.1
経管栄養	9.1
モニター測定	3.6
じょくそうの処置	4.0
カテーテル	8.2

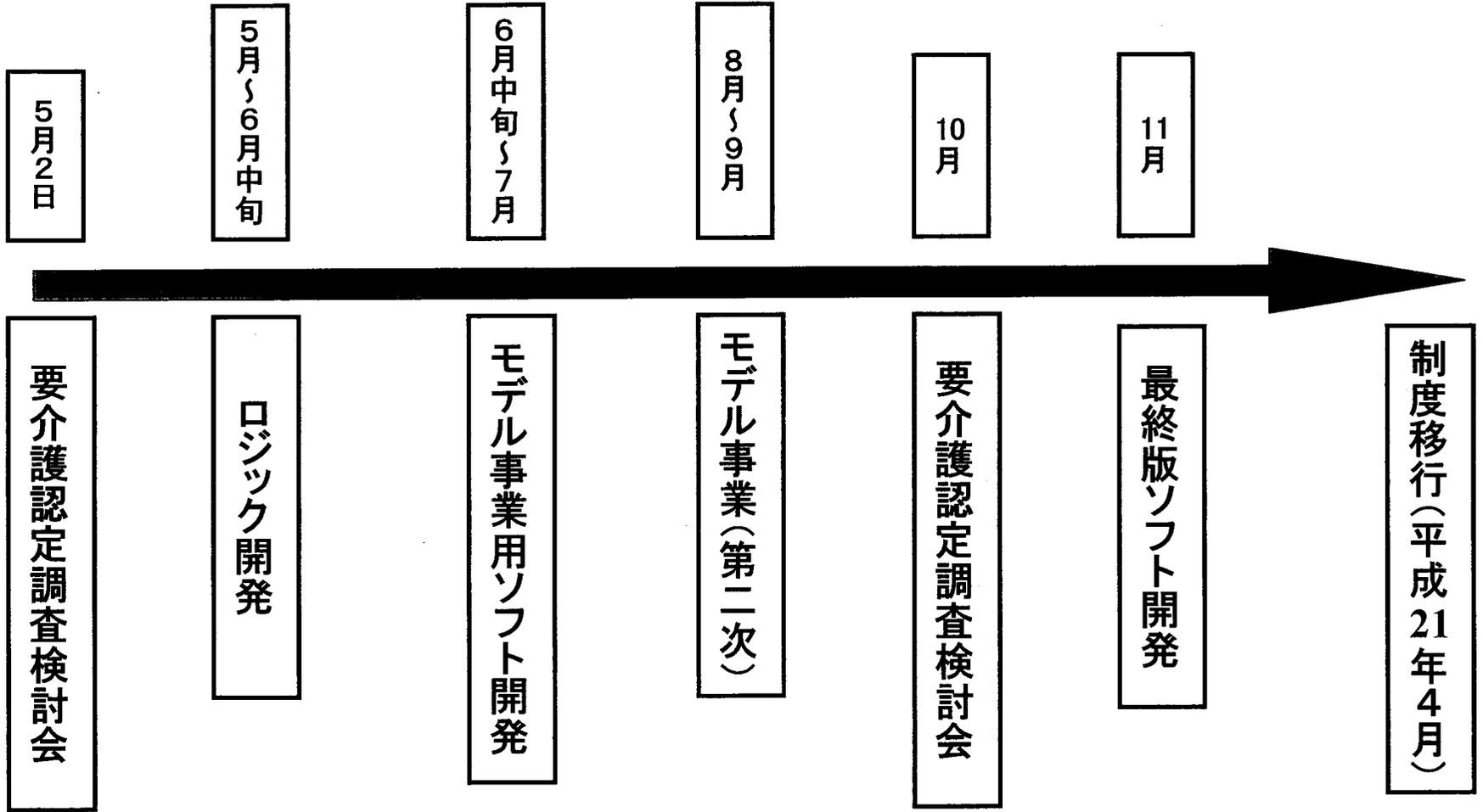
現状：介護保険制度開始当初のデータを利用



対策：新たなタイムスタディの結果に基づき特別な医療にかかる時間の修正

特別な医療の算定方法：平成18年の実態調査において当該医療措置を受けている者の医療行為にかかる時間から当該医療行為を行っていない者の医療行為にかかる時間を減じることで算定する。

## 要介護認定一次判定ロジック(樹形図)変更の流れ



項目選定条件について①

[条件1] 回答(選択肢)と二次判定のクロス表を作成し、 $\chi^2$ 値による検定を実施し、

二次判定別の回答構成に差があるかを確認

選定条件: 検定結果が0.1%の有意水準を満たさない設問を除外対象とする

《×;除外の例》

「検定結果が0.1%の有意水準を満たさない」

16-8-6 訪問者 医療関係職 (要支援1・要支援2を除く)

設問	選択肢	要介護度					計
		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
16-8-6 訪問者 医療関係者	1 毎日	171	278	544	653	686	2,332
	2 1回/週	6	20	41	51	46	164
	3 1回/月	4	7	13	13	11	48
	4 ない	90	156	218	257	242	963
		271	461	816	974	985	3,507

$\chi^2=23.7$  有意確率  $P=0.023 > 0.1\%$

《○;選定の例》

「検定結果が0.1%の有意水準を満たしている」

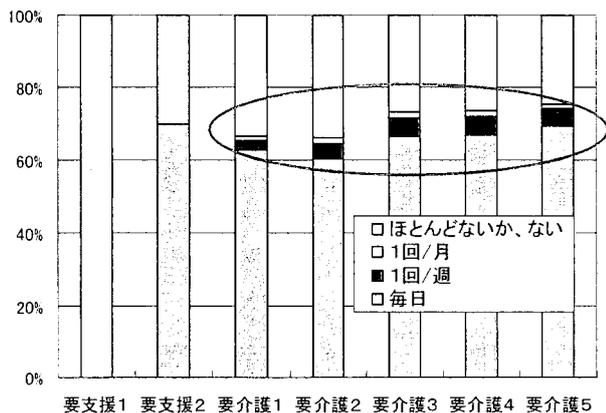
14-7 昼間から寝ていたり閉じこもる (要支援1・要支援2を除く)

設問	選択肢	要介護度					計
		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
14-7 昼間から寝ていたり 閉じこもる	1 ない	181	302	552	733	865	2,633
	2 まれにある	41	54	95	70	16	276
	3 とときある	23	52	76	61	13	225
	4 よくある	26	53	93	110	91	373
		271	461	816	974	985	3,507

$\chi^2=199.0$  有意確率  $P=0.000 < 0.1\%$

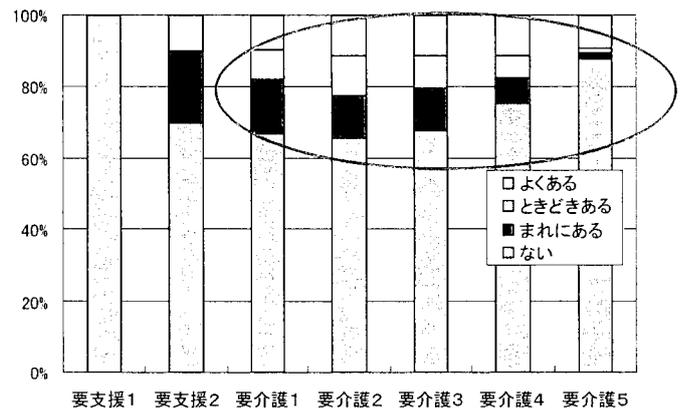
要介護度別の回答構成の差が小さい

16-8-6 訪問者 医療関係職



要介護度別の回答構成の差が大きい

14-7 昼間から寝ていたり閉じこもる





項目選定条件について③

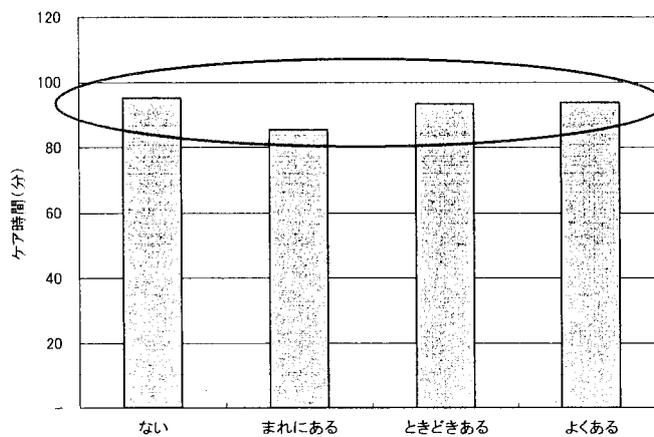
[条件3] 回答(選択肢)と施設調査ケア時間の関係を一元配置分散分析で確認し、  
 回答(選択肢)別のケア時間に差があるかを確認  
 選定条件; 検定結果が0.1%の有意水準を満たさない設問を除外対象とする

《×;除外の例》

「検定結果が0.1%の有意水準を満たさない」

14-5 過度に悲観的になる 有意確率  $P=0.014 > 0.1\%$

過度に悲観的になる



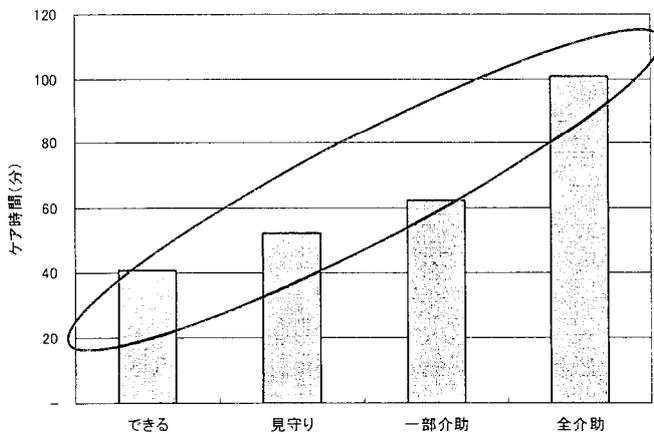
回答選択肢別のグループ間のケア時間に統計的に差がない

《○;選定の例》

「検定結果が0.1%の有意水準を満たしている」

13-7 ごみ捨て 有意確率  $P=0.000 < 0.1\%$

ごみ捨て



回答選択肢別のグループ間のケア時間に差がある

(参考)

2008年5月2日

国立保健医療科学院 筒井 孝子

「高齢者の老化プロセスにおける分析に関する研究」委員会 WG からの報告（抜粋）

## 目 次

1. 老化パターンからの高齢者分類の結果
2. C2 と C3 の特徴の分析
  - 1) C2 と C3 の経年的な変化
  - 2) 中間評価項目得点の比較
  - 3) 認定調査項目間の比較
3. C2 と C3 の経年的変化の予測
4. 基本属性を含めた経年的変化を予測する項目についての検討
  - 1) 分析対象の性別年齢階層別人数
  - 2) 要介護度の変化
  - 3) C2 又は C3 の変動傾向と評価項目との関係
5. 削除項目の見直し
  - 1) 老化プロセス分析結果を踏まえた削除項目の見直し
  - 2) 平成 19 年度老健事業による削除項目の追加
  - 3) 削除項目の提案

## － 第4回要介護認定調査検討会（別添資料） －

「高齢者の老化プロセスにおける分析に関する研究」委員会WGからの報告（抜粋）

### 1. 老化パターンからの高齢者分類の結果

分析対象群の要介護度の推移には、次第に重度化する者、あまり変化しない者、ある時期急激に重度化する者など、いくつかのパターンに分類できた。そこで、昨年度より、これらのパターンをクラスター分析により分類し、分類8（分類C8と略し、この分類をそれぞれ、C1～8と示した）の要介護度の推移について特徴的な分析結果が示されたので報告する。なお、グラフ描画1にあたっては、便宜上{非該当=1、要支援=2、要介護1=3～要介護5=7}とおいた平均値を示している。

C1～8のうち特徴的な経年的な変化を示していたのは、C2とC3であった。これらの2群は、初回が要介護1の場合、ほとんど変動しない群と、経年的に重度化する群の2通りが示されている。

同様な傾向は要介護2～3においても認められるが要介護1の場合は顕著である。さらに、高齢者を分類し、12分類とした場合には、初回が要介護1であっても、その後、要支援に軽度化する群なども現れているが、本報告では、C8についての経年的な変化を予測する認定調査項目について分析結果を示した。

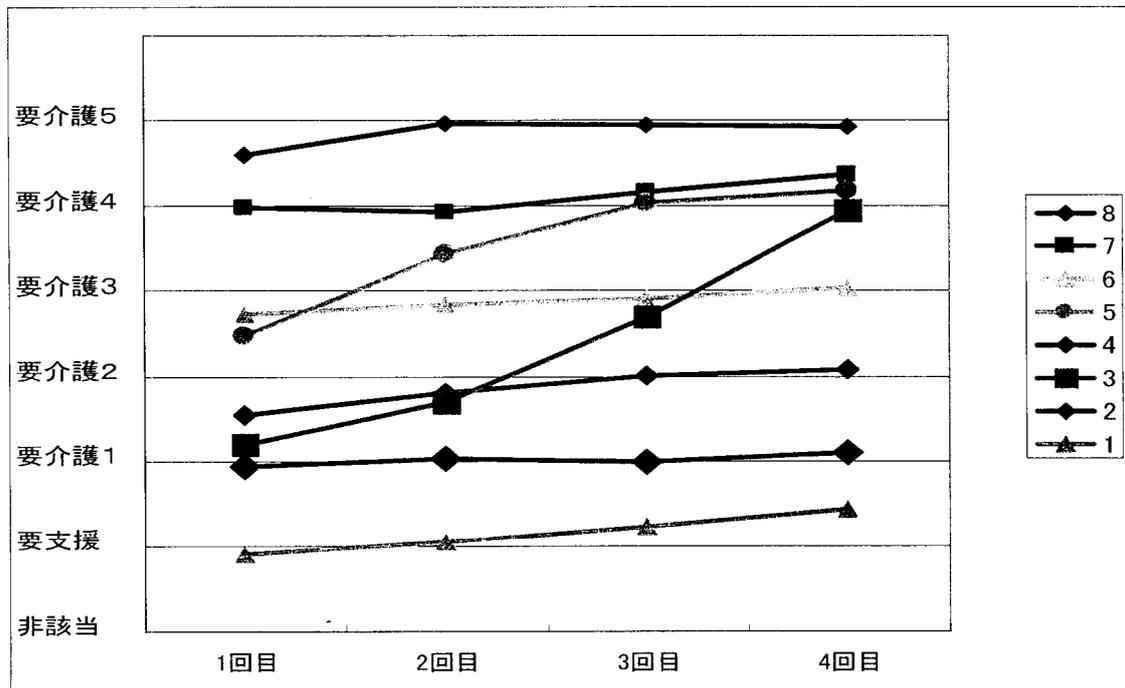


図1 クラスター8分類

### 2. C2とC3の特徴の分析

#### 1) C2とC3の経年的な変化

各クラスターのデータが十分あり、比較的安定していると思われるクラスター8分類の結果を踏まえ、特徴的な2群を抽出して、初回の状態像の比較を試みた。

C2 は、要介護1を主体とした群であり、4回の間にほとんど変化がない。これに対し、C3 は、1回目は、C2 と同様に要介護1がほとんどであるが、認定を経るに従って、重度化する傾向があることが示されている。

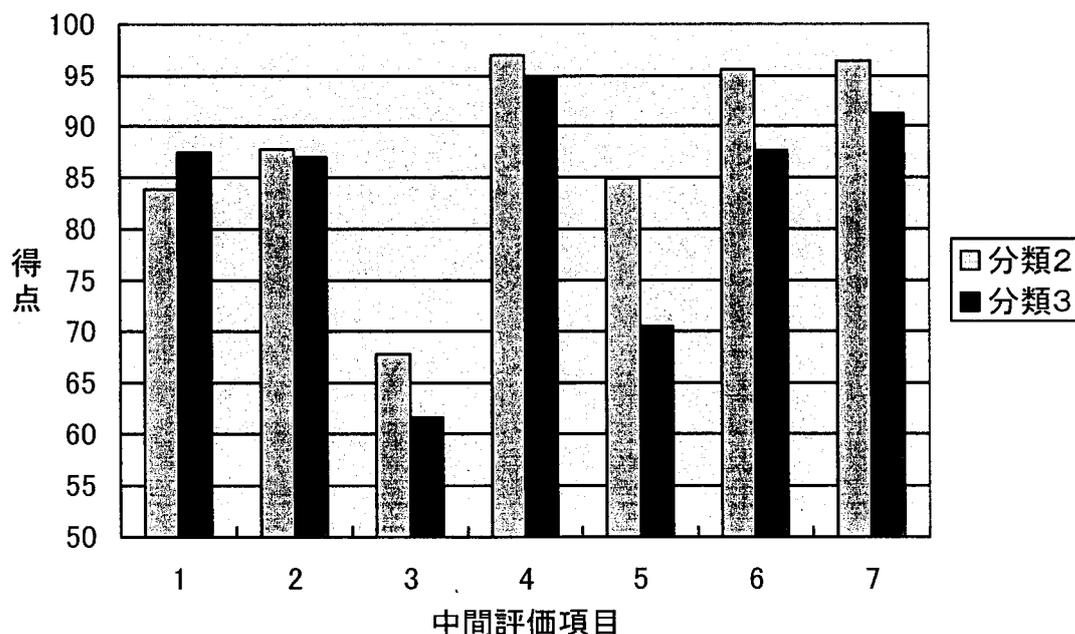
## 2) 中間評価項目得点の比較

両群の中間評価項目得点の比較を行った結果、いずれも統計的に有意であった。

特に差が大きかったのは、「第5：身の回りの世話等に関連する項目」で、続いて、「第3：複雑な動作等に関連する項目」、「第6：コミュニケーション等に関する項目」、「第7：問題行動に関連する項目」についても点数に有意な差が認められた。

これまで、「第3：複雑な動作等に関連する項目」や「第5：身の回りの世話に等に関連する項目」は、軽度の要介護状態から低下することが知られていた。本分析の結果から、経時的に要介護度が重度化しやすい高齢者群において、これらの中間評価項目得点が低下していることが示唆された。また、今回、認知や記憶等に関連する「第6：コミュニケーション等に関する項目」、「第7：問題行動に関連する項目」でも有意差が見られた。

図2 中間評価項目得点



## 3) 認定調査項目間の比較

この分析においては、全体の1%を無作為抽出したサブデータセットに対して認定調査項目についての比較を行った。

検定の結果  $P < 0.001$  であった項目に対して「\*」を表示した。調査項目ごとの比較は Mann-Whitney U 検定により行った。

この結果第5群の全てと第6群のほとんど全ての項目で有意差が見られた他、第7群のから10項目、第3群から1項目、第4群から3項目に有意な差があることがわかった。

表1 認定調査項目のC2およびC3の比較

中間	項目	平均ランク		中間	項目	平均ランク	
		C2	C3			C2	C3
1	麻痺 (左上)	375.5	368.4	6	視力	374.0	377.5
	麻痺 (右上)	376.6	362.0		聴力	377.4	357.6
	麻痺 (左下)	376.3	363.8		意思の伝達	366.4	421.9 *
	麻痺 (右下)	376.4	363.1		指示への反応	369.0	407.0 *
	麻痺 (その他)	377.7	355.8		毎日の日課を理解	360.7	455.4 *
	拘縮 (肩関節)	376.8	361.0		生年月日をいう	365.8	425.6 *
	拘縮 (肘関節)	376.5	362.7		短期記憶	362.4	445.2 *
	拘縮 (股関節)	376.5	362.6		自分の名前をいう	373.0	383.3 *
	拘縮 (膝関節)	380.9	336.9		今の季節を理解	364.4	433.7 *
	拘縮 (足関節)	376.6	362.2		場所の理解	368.8	408.0 *
2	拘縮 (その他)	378.7	350.0	被害的	367.9	413.2 *	
	寝返り	376.6	362.2	作話	367.9	413.2 *	
	起き上がり	374.5	374.8	幻視幻聴	367.5	415.7 *	
	両足での座位	374.0	377.4	感情が不安定	370.4	398.6	
	両足つかない座位	381.2	335.0	昼夜逆転	369.6	403.4	
	両足での立位	373.1	382.6	暴言暴行	369.5	403.8 *	
	歩行	373.9	378.2	同じ話をする	371.0	395.2	
3	移乗	375.5	368.7	大声を出す	373.3	381.7	
	立ち上がり	376.9	360.6	7 介護に抵抗	368.8	408.2 *	
	片足での立位	374.5	374.6	常時の徘徊	371.3	393.1	
	浴槽の出入り	365.4	427.8	落ち着きなし	368.8	408.0 *	
4	洗身	359.2	464.4 *	外出して戻れない	368.9	407.2 *	
	じょくそう	374.1	376.9	一人で出たがる	371.5	392.2	
	皮膚疾患	370.9	395.6	収集癖	368.9	407.2 *	
	片手胸元持ち上げ	374.8	373.0	火の不始末	373.7	379.3	
	えん下	375.5	368.9	物や衣類を壊す	373.6	379.9	
	尿意	369.4	404.5 *	不潔行為	370.3	399.3 *	
	便意	371.3	393.5 *	異食行動	371.9	389.6 *	
	排尿後の後始末	367.2	417.5	性的迷惑行為	374.2	376.4	
	排便後の後始末	365.4	428.1 *	点滴の管理	376.5	363.0	
	食事摂取	374.0	377.6	中心静脈栄養	374.5	374.5	
5	口腔清潔	363.8	437.4 *	透折	373.8	378.9	
	洗顔	366.8	419.7 *	ストーマの処置	374.5	374.5	
	整髪	366.3	422.3 *	酸素療法	374.0	377.4	
	つめ切り	362.1	447.3 *	8 レスピレーター	374.5	374.5	
	ボタンのかけはずし	365.9	425.1 *	気管切開の処置	374.5	374.5	
	上衣の着脱	362.2	446.3 *	疼痛の看護	379.0	348.4	
	ズボン等の着脱	360.4	457.2 *	経管栄養	374.5	374.5	
	靴下の着脱	363.6	438.2 *	モニター測定	374.7	373.5	
	居室の掃除	363.6	438.1 *	じょくそうの処置	374.9	372.0	
	薬の内服	356.3	481.3 *	カテーテル	374.0	377.4	
	金銭の管理	358.6	467.6 *				
	ひどい物忘れ	360.6	456.3 *				
	周囲への無関心	367.0	418.7 *				

### 3. C2とC3の経年的変化の予測

中間評価項目および調査項目を用いて、C2とC3を判別する判別分析を行った。中間評価項目は全て投入し、認定調査項目は、C2とC3において有意差が認められた項目を抽出して投入し、いずれもステップワイズ法により有効な項目を抽出した。

中間評価項目では、第4中間評価項目が削除され、調査項目では、35項目中25項目が示されている。ただし、判別分析の判別能を示す正準相関係数とWilksの $\Lambda$ は、十分な値を示さなかった。

表2 判別分析 (ステップワイズ法)

中間評価項目		調査項目 (有意差のあるものを抽出)	
	標準化された正準判別関数係数		標準化された正準判別関数係数
第1中間評価	-.192	洗身	.132
第2中間評価	-.379	口腔清潔	.099
第3中間評価	.303	洗顔	-.036
第5中間評価	.694	整髪	-.051
第6中間評価	.333	つめ切り	.101
第7中間評価	.137	ズボン等の着脱	.133
		薬の内服	.209
		金銭の管理	.150
		指示への反応	-.026
		毎日の日課を理解	.110
		生年月日をいう	.157
		短期記憶	.078
		自分の名前をいう	-.032
		今の季節を理解	.156
		場所の理解	.095
		被害的	.027
		幻視幻聴	.123
		介護に抵抗	.038
		落ち着きなし	.069
		常時の徘徊	.042
		尿意	.069
		排便後の後始末	.134
		ボタンのかけはずし	.069
		居室の掃除	.042
		周囲への無関心	.029

#### 4. 基本属性を含めた経年的変化を予測する項目についての検討

##### 1) 分析対象の性別年齢階層別人数

2000年4月1日時点で認定があり、認定99と認定2003で、少なくとも4回以上の認定回数があり、かつ、その4回の各認定の間隔が6カ月以上である事例のみを抽出したデータ数は264,244件であった。

表3 性別年齢階層別人数

年齢	男		女		合計	
55-64	420	0.60%	408	0.20%	828	0.30%
65-69	8,967	13.60%	9,815	5.00%	18,782	7.10%
70-74	13,285	20.10%	21,606	10.90%	34,891	13.20%
75-79	13,785	20.90%	41,069	20.70%	54,854	20.80%
80-84	13,773	20.80%	52,283	26.40%	66,056	25.00%
85-89	10,806	16.30%	46,918	23.70%	57,724	21.80%
90-94	4,205	6.40%	20,978	10.60%	25,183	9.50%
95-99	799	1.20%	4,609	2.30%	5,408	2.00%
100-	60	0.10%	458	0.20%	518	0.20%
合計	66,100	25.01%	198,144	74.99%	264,244	100.00%

##### 2) 要介護度の変化

C2およびC3の全体に占める割合をみると、C2は24.12%、C3は4.11%であり、顕著に悪化していくC3のほうが少ない。C2は、ほとんど変動がなく、およそ3年間、大きな変動はみられない。また、要介護度の変動が顕著に示されるのは、3回目であり、およそ1年半から2年が経過した後であった。

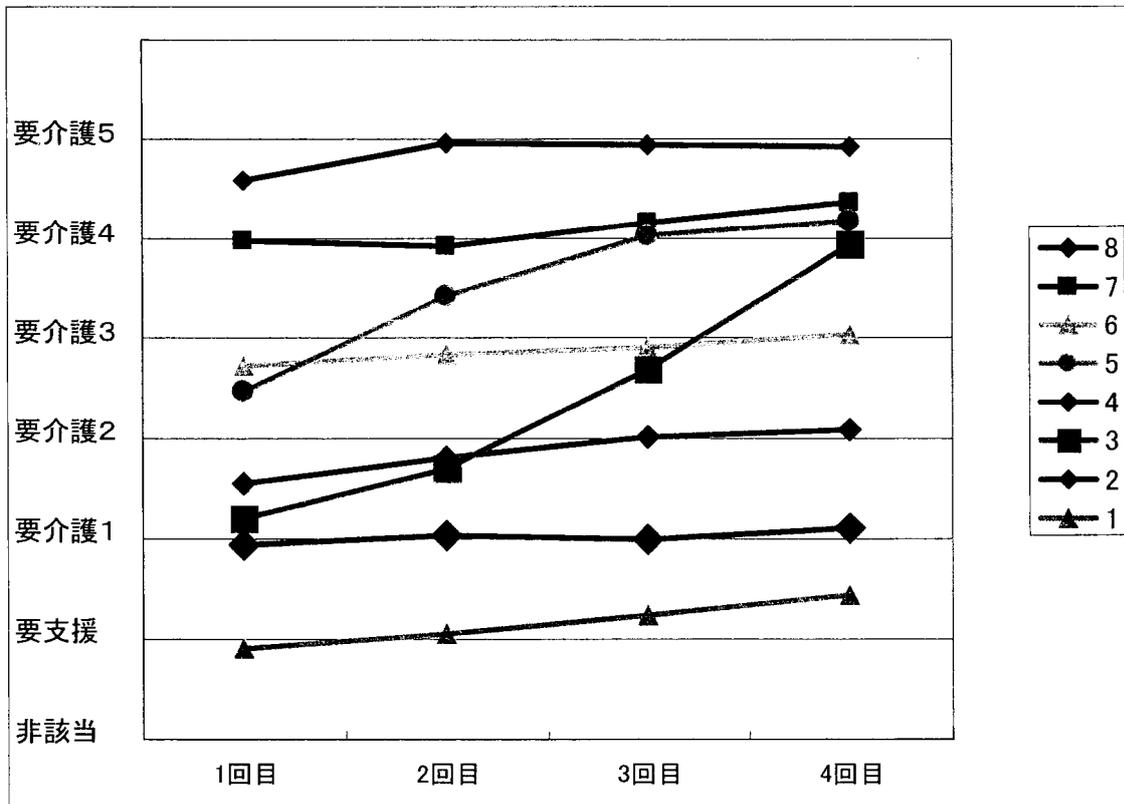
表4 C2とC3の占める割合

分類	度数	パーセント
1	33,553	12.70%
2	63,744	24.12%
3	10,858	4.11%
4	42,632	16.13%
5	18,792	7.11%
6	29,723	11.25%
7	35,676	13.50%
8	29,266	11.08%
合計	264,244	100.00%

表5 C2およびC3の認定回数ごとの要介護度の変動結果

8分類	認定回数	種別	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
C2	1回目	度数	2651	9907	41388	8210	1305	236	47	63744
		%	4.16%	15.54%	64.93%	12.88%	2.05%	0.37%	0.07%	100.00%
	2回目	度数	29	2815	56030	4472	340	43	15	63744
		%	0.05%	4.42%	87.90%	7.02%	0.53%	0.07%	0.02%	100.00%
	3回目	度数	4	2826	58365	2388	128	29	4	63744
		%	0.01%	4.43%	91.56%	3.75%	0.20%	0.05%	0.01%	100.00%
	4回目	度数	7	4518	49822	7876	1521	0	0	63744
		%	0.01%	7.09%	78.16%	12.36%	2.39%	0.00%	0.00%	100.00%
C3	1回目	度数	341	850	6475	2794	341	53	4	10858
		%	3.14%	7.83%	59.63%	25.73%	3.14%	0.49%	0.04%	100.00%
	2回目	度数	21	198	3632	6339	581	75	12	10858
		%	0.19%	1.82%	33.45%	58.38%	5.35%	0.69%	0.11%	100.00%
	3回目	度数	0	45	1127	2789	5348	1168	381	10858
		%	0.00%	0.41%	10.38%	25.69%	49.25%	10.76%	3.51%	100.00%
	4回目	度数	0	0	0	0	2601	6140	2117	10858
		%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	23.95%	56.55%	19.50%	100.00%

図3 C2およびC3の認定回数ごとの要介護度の変化 (図1再掲)



3) C2 又は C3 の変動傾向と評価項目との関係

クラスターで分けられた C2 又は C3 の傾向とこれらの高齢者群の認定評価項目の評価結果の値との相関を分析し、1 回目の相関係数の絶対値の降順で並べ替えた。

表 6 C2 又は C3 と評価項目との相関係数  
(1 回目の絶対値の降順)

項目 \ 認定回数	1 回目	2 回目	3 回目	4 回目
C2 又は C3	1.0000	1.0000	1.0000	1.0000
薬の内服	0.2661	0.3416	0.4446	0.5554
金銭の管理	0.2516	0.3278	0.4130	0.4707
毎日の日課を理解	0.2375	0.3141	0.4138	0.4883
今の季節を理解	0.2228	0.2960	0.3952	0.4749
短期記憶	0.2108	0.2745	0.3715	0.4487
場所の理解	0.1921	0.2640	0.3853	0.4965
ズボン等の着脱	0.1883	0.3897	0.6355	0.7564
排尿後の後始末	0.1880	0.3545	0.5815	0.7486
排尿	0.1872	0.3472	0.5739	0.7400
口腔清潔	0.1856	0.3530	0.5883	0.7426
生年月日をいう	0.1850	0.2531	0.3352	0.4291
排便	0.1847	0.3574	0.6051	0.7724
排便後の後始末	0.1836	0.3619	0.6068	0.7759
上衣の着脱	0.1742	0.3568	0.6014	0.7398
常時の徘徊	0.1733	0.2276	0.2817	0.2466
つめ切り	0.1661	0.2516	0.3331	0.3663
洗身	0.1593	0.2782	0.4300	0.5639
洗顔	0.1570	0.3359	0.5935	0.7584
ひどい物忘れ	0.1529	0.1774	0.1982	0.1538
靴下の着脱	0.1513	0.3457	0.6237	0.7599
落ち着きなし	0.1497	0.1989	0.2412	0.2109
ボタンのかけはずし	0.1458	0.3062	0.5385	0.7049
整髪	0.1430	0.3056	0.5589	0.7529
周囲への無関心	0.1401	0.2119	0.2886	0.3255
外出して戻れない	0.1356	0.1785	0.2141	0.1739
指示への反応	0.1350	0.2060	0.3251	0.4434
一人で出たがる	0.1345	0.1789	0.2110	0.1618
意思の伝達	0.1344	0.2083	0.3487	0.4902
幻視幻聴	0.1344	0.1805	0.2139	0.2058
居室の掃除	0.1342	0.2120	0.2940	0.3365

介護に抵抗	0.1333	0.1827	0.2332	0.2403
被害的	0.1266	0.1392	0.1358	0.0875
収集癖	0.1260	0.1590	0.1686	0.1192
作話	0.1139	0.1221	0.1426	0.1047
同じ話をする	0.1116	0.1343	0.1334	0.0974
浴槽の出入り	0.1107	0.2121	0.3681	0.5463
不潔行為	0.1105	0.1732	0.2310	0.2307
1回目の年齢	0.1052	—	—	—
暴言暴行	0.1050	0.1343	0.1774	0.1794
尿意	0.1039	0.2107	0.4113	0.6005
便意	0.0937	0.1966	0.4310	0.6512
拘縮(膝関節)	-0.0922	-0.0918	-0.0603	-0.0022
大声を出す	0.0815	0.1266	0.1847	0.2146
感情が不安定	0.0713	0.1126	0.1593	0.1619
現在の状況	0.0682	0.0895	0.1818	0.2845
昼夜逆転	0.0661	0.1077	0.1757	0.2053
異食行動	0.0631	0.1022	0.1378	0.1495
物や衣類を壊す	0.0615	0.0950	0.1240	0.1373
疼痛の看護	-0.0563	-0.0692	-0.0678	-0.0831
両足での立位	0.0528	0.1350	0.3090	0.5269
自分の名前をいう	0.0526	0.0944	0.1726	0.2952
食事摂取	0.0524	0.1635	0.3821	0.6171
1回目の性別(男1:女2)	-0.0457	—	—	—
拘縮(その他)	-0.0392	-0.0341	-0.0211	-0.0167
拘縮(股関節)	-0.0382	-0.0258	0.0227	0.1155
拘縮(肩関節)	-0.0378	-0.0212	0.0076	0.0649
立ち上がり	-0.0355	0.0128	0.2001	0.4878
麻痺(その他)	-0.0334	-0.0245	-0.0223	-0.0175
性的迷惑行為	0.0308	0.0407	0.0528	0.0578
聴力	0.0296	0.0389	0.0514	0.0742
点滴の管理	-0.0282	-0.0190	0.0254	0.1057
火の不始末	0.0266	-0.0003	-0.0270	-0.0627
移乗	0.0258	0.2000	0.5328	0.7638
拘縮(足関節)	-0.0223	-0.0072	0.0242	0.0941
麻痺(右上)	-0.0179	-0.0001	0.0498	0.1472
片足での立位	0.0173	0.0906	0.2594	0.4432
皮膚疾患	-0.0164	-0.0115	0.0080	0.0217
じょくそう	0.0156	0.0402	0.1157	0.2325

えん下	0.0153	0.0646	0.1500	0.3069
起き上がり	-0.0135	0.0422	0.1787	0.4127
カテーテル	0.0126	0.0241	0.1098	0.2225
両足での座位	0.0103	0.0781	0.2384	0.4864
座位保持	0.0101	0.0778	0.2390	0.4856
拘縮(肘関節)	-0.0087	0.0048	0.0349	0.1068
寝返り	0.0078	0.0657	0.1879	0.3829
麻痺(左上)	-0.0075	0.0106	0.0628	0.1663
両足つかない座位	-0.0070	0.0524	0.1798	0.3687
麻痺(右下)	-0.0062	0.0290	0.0961	0.1689
じょくそうの処置	0.0060	0.0254	0.1027	0.2182
ストーマの処置	0.0060	0.0070	0.0142	0.0259
レスピレーター	-0.0059	-0.0015	0.0156	0.0252
モニター測定	-0.0052	0.0001	0.0252	0.0725
歩行	-0.0040	0.0482	0.2256	0.4480
経管栄養	-0.0037	0.0039	0.0871	0.1960
透析	-0.0037	-0.0023	0.0020	0.0079
中心静脈栄養	-0.0029	-0.0018	0.0399	0.1101
片手胸元持ち上げ	0.0023	0.0068	0.0568	0.1520
麻痺(左下)	-0.0023	0.0330	0.0993	0.1724
気管切開の処置	-0.0022	0.0028	0.0187	0.0507
酸素療法	-0.0021	0.0091	0.0240	0.0650
視力	0.0015	0.0224	0.0615	0.1373
移動	—	0.0634	0.5211	0.6887
飲水	—	0.1577	0.4345	0.6062
電話の利用	—	0.1642	0.4339	0.4188
日常の意思決定	—	0.1976	0.3608	0.4561

0.5 以上

5. 削除項目の見直し

1) 老化プロセス分析結果を踏まえた削除項目の見直し

下記の表 7 は、今回提出された削除項目案であるが、赤字の項目は、新たな経年的なデータ分析から悪化群を予測できる可能性があるため、削除とはせず残したほうがよいと考えられる。

表 7 第 4 回要介護認定検討会削除項目案

* 1. 拘縮（肘関節）	* 13. 暴言暴行
* 2. 拘縮（足関節）	14. 大声を出す
* 3. じょくそう	* 15. 常時の徘徊
* 4. 皮膚疾患	* 16. 落ち着きなし
* 5. 飲水	* 17. 外出して戻れない
* 6. つめ切り	18. 一人で出たがる
* 7. 生年月日を言う	* 19. 収集癖
* 8. 自分の名前を言う	20. 火の不始末
* 9. 場所の理解	21. 物や衣類を壊す
* 10. 被害的	* 22. 不潔行為
* 11. 作話	* 23. 異食行動
* 12. 幻視幻聴	24. 環境等の変化

2) 平成 19 年度老健事業による削除項目の追加

一方で、下記の表 8 の項目についての削除を提案する。これらを削除する理由に関しては、平成 19 年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）「要介護認定調査の質向上を目途とし作成された新マニュアルと、旧マニュアルとの相違に関する検討事業」において、認定調査員からとくに判断が難しく、項目の削除を求められたものである。判断が難しい理由としては、以下の通りであった。

- （
1. 居宅と施設によって判断が異なる。
  2. 本人の生活習慣によって判断が異なる。
  3. 本人と家族の価値観の違いによって判断が異なる
- ）

表 8 判断の難しさから削除を求められた項目

1. 皮膚疾患
2. 電話の利用
3. 飲水
4. 指示への反応
5. 感情が不安定
6. 同じ話をする
7. 日中の生活
8. 外出頻度

### 3) 削除項目の提案

これまでの議論を踏まえて、以下の削除すべき項目を提案する。

表9 老化プロセスWGとH19老健事業の検討結果を踏まえた削除項目案

1. 拘縮（肘関節）	13. 収集癖
2. 拘縮（足関節）	14. 火の不始末
3. じょくそう	15. 物や衣類を壊す
4. 皮膚疾患	16. 不潔行為
5. 飲水	17. 異食行動
6. 作話	18. 環境等の変化
7. 幻視幻聴	19. 電話の利用
8. 暴言暴行	20. 指示への反応
9. 大声を出す	21. 感情が不安定
10. 落ち着きなし	22. 同じ話をする
11. 外出して戻れない	23. 日中の生活
12. 一人で出たがる	24. 外出頻度

#### 第4回要介護認定検討会削除項目案

1. 拘縮(肘関節)	*13. 暴言暴行
2. 拘縮(足関節)	14. 大声を出す
3. じょくそう	*15. 常時の徘徊
4. 皮膚疾患	*16. 落ち着きなし
5. 飲水	*17. 外出して戻れない
*6. つめ切り	18. 一人で出たがる
*7. 生年月日を言う	*19. 収集癖
*8. 自分の名前を言う	20. 火の不始末
*9. 場所の理解	21. 物や衣類を壊す
*10. 被害的	*22. 不潔行為
*11. 作話	*23. 異食行動
*12. 幻視幻聴	24. 環境等の変化

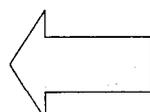
#### 老化プロセス分析委員会による検討



- ・つめ切り
- ・生年月日を言う
- ・自分の名前を言う
- ・場所の理解
- ・被害的
- ・常時の徘徊

理由: 新たな経年的なデータ分析から悪化群を予測できる可能性がある

#### H19老健事業による検討



1. 拘縮(肘関節)	13. 収集癖
2. 拘縮(足関節)	14. 火の不始末
3. じょくそう	15. 物や衣類を壊す
4. 皮膚疾患	16. 不潔行為
5. 飲水	17. 異食行動
6. 作話	18. 環境等の変化
7. 幻視幻聴	19. 電話の利用
8. 暴言暴行	20. 指示への反応
9. 大声を出す	21. 感情が不安定
10. 落ち着きなし	22. 同じ話をする
11. 外出して戻れない	23. 日中の生活
12. 一人で出たがる	24. 外出頻度

- ・皮膚疾患
- ・電話の利用
- ・飲水
- ・指示への反応
- ・感情が不安定
- ・同じ話をする
- ・日中の生活
- ・外出頻度

理由: 認定調査員にとって客観的な判断が難しい

図4 削除項目の選定プロセス